

氏名・所属・身分	期間	研究課題
Abe, Ryuuichi (阿部龍一) (コロンビア大学宗教学部・助教授)	1998. 9.10 ~98.10. 4	中国と日本における宗教の比較研究
高 洪 (中国社会科学院日本研究所政治研究室・主任)	1998.10. 1 ~98.12.31	日本の政党体制と政治局勢に関する考察
Drew Memmott (コロンビア大学・博士課程)	1998.10. 1 ~99. 9.30	戦略産業における協力：韓国への技術移転
楊 博 (北京組織人事科学研究所・助理研究員)	1998.10.19 ~99.10.18	日本人の人的資源政策と人事管理
陳 耀 庭 (上海社会科学院宗教研究所・教授)	1998.10. 1 ~99. 7.31	21世紀に向けての和漢民族の宗教信仰の特色についての比較研究
陳 祖 武 (中国社会科学院歴史研究所・研究員)	1998.10. 6 ~98.10.19	『明儒学案』から『清儒学案』まで
李 錫 厚 (中国社会科学院歴史研究所・研究員)	1998.10. 6 ~98.10.19	清代学術史研究交流
解 莉 莉 (中国社会科学院・外事局・副研究員)	1998.10. 6 ~98.10.19	日本学会における文学・史学の研究状況について
石 源 華 (復旦大学歴史学系・教授)	1998.12.12 ~99. 1.11	中国と日韓朝関係および東北アジアの安全保障
夏 応 元 (北京東洋歴史文化研究所・所長)	1999. 1. 6 ~01. 1. 5	日本文化の淵源を探究する一唐宋時代における日本人来華後の経路とその活動内容に対する研究
朴 燮 (仁済大学校人文社会科学大学経済学 科・助教授)	1998.12.15 ~99. 2.28	インドと韓国における企業家の形成
Ehsan Eshraqi (テヘラン大学文学部歴史学科・教授)	1999. 1.11 ~99. 2. 1	サファヴィー朝期ペルシャ語写本の研究
Park Sun-won (朴善源) (ウォーリック大学政治国際研究学部・院生)	1999. 2. 1 ~00. 7.14	1978年から1983年にかけての韓国政治混乱に対する米国と日本の政治的影響力の比較研究
趙 錫 坤 (尚志大学校経済通商学部・専任講師)	1999. 2. 1 ~99. 2.15	土地制度の比較研究
李 榮 薰 (成均館大学校経済学部・教授)	1999. 2. 8 ~99. 2.20	中国明・清代奴婢・佃僕に関する史料・論文調査
Aditya Mukherjee (ジャワハルラル・ネルー大学歴史学 研究科・教授)	1999. 3.15 ~00. 3.14	独立以降のインド経済開発の史的 研究
Mridula Mukherjee (ジャワハルラル・ネルー大学歴史学 研究科・教授)	1999. 3.15 ~00. 3.14	第2次大戦以降のインドにおけるナ ショナリズム・民主主義・開発
David Wolff (スミソニアン博物館合戦研究センター・ 助教授)	1999. 3.15 ~00. 3.14	不協和音の島・沖縄
金 東 洙 (国立全南大学校人文大史学科・科長)	1999. 4. 1 ~00. 3.30	甲午改革期の地方制度改革案一特に 日本の影響問題検討
于 志 嘉 (中央研究院歴史語言研究所・研究員)	1999. 4. 1 ~99. 4.30	清代江西の衛所について
徐 蘇 斌 (東京造形大学・非常勤講師)	1999. 4.23 ~00. 4.22	近代日中建築文化関係史
CHAN Alan Kam Leung (国立シンガポール大学社会学部・助 教授)	1999. 5.10 ~99. 7. 3	老子研究

氏名・所属・身分	期間	研究課題
Laxman D. Satya (Associate Professor, Dept. of History Lock Haven Univ.)	1999. 5.25 ～99. 6. 5	中央インド・ベラルールの自然環境史
Soe Win Maung (ミャンマー農業灌漑省農業計画局計 画・副部長)	1999. 5.17 ～00. 3.16	ミャンマーの農業政策の資源利用お よび農業所得に対するインパクト
Alaedini, Pooya (ラドガーズ大学計画学部)	1999. 6. 1 ～99.10.21	発展途上国における投資, 民営化, 技術獲得, イランのケース
楊 永 明 (国立台湾大学政治学系・助教授)	1999. 6.21 ～99. 9.19	日米安保と台湾の安全保障
宮崎 広和 (ノースウエスタン大学人類学部・講 師)	1999. 8. 1 ～00. 7.31	トランスナショナル状況と社会関係- 東京とシカゴの先物市場における日 本人とアメリカ人
田 寅 甲 (ソウル大学校・人文大学東洋史学科・ 講師)	1999. 7. 1 ～00. 6.30	1920・30年代東アジアの情報流通と “上海ネットワーク”
Muhammad Sabry Youssuf (ヘルワン大学文学部歴史学科・講師)	1999. 9. 1 ～00. 8.31	オスマン期エジプトの知と思想
Nawalage Seneviratne Cooray (国連大学高等研究所・助手)	1999. 9. 1 ～00. 1.31	経済成長と政策分析, 発展途上国に おける計量経済モデリング及び持続 可能な発展の枠組み
王 震 中 (社会科学院歴史研究所・副研究員 (教授))	1999. 9. 6 ～00. 9. 5	日本における近代以降の中国研究
Adiole Emmanuel (東京大学大学院法学政治学研究科・ 博士課程)	1999.10. 1 ～01. 9.30	日本のエネルギー安全保障外交と東 アジアの国際政治
Tahmina Khatun (国連大学高等研究所(ダッカ大学経 営学部・助教授))	1999.10.15 ～00. 3.25	貧困, 経済成長と人材養成のリンケ ージ: 総合的アプローチ
李 根 蟠 (中国社会科学院経済研究所・研究員)	1999.10.25 ～99.11. 7	中国近現代経済史研究
董 志 凱 (中国社会科学院経済研究所・教授)	1999.10.25 ～99.11. 7	中国近現代経済史研究
陳 争 平 (中国社会科学院経済研究所・副研究 員)	1999.10.25 ～99.11. 7	中国近現代経済史研究
宋 太 郎 (武漢大学法学院・教授)	1999.11.14 ～99.11.27	紛争解決に関する中日比較
朱 秀 芳 (武漢大学研究生院・副処級・調査研 究員)	1999.11.14 ～99.11.27	大学院法学教育における中日比較
Albert Welter (Canada Wennepeg 大学・助教授)	1999.12. 1 ～99.12.23	初期中国禅宗史の研究
Wenran Jiang (アルバータ大学・助教授)	2000. 1. 5 ～ 1. 1. 4	グローバルパワーとしての中国台頭 に対する日本の反応
何 磊 (中国中医研究院・基礎医学研究所講 師)	2000. 3. 1 ～ 1. 2.28	中日医学思想の比較研究
Chevalerias Philippe (現代中国研究センター・研究員)	2000. 3. 1 ～ 1. 2.28	日本・台湾・中国の三角経済関係: 密貿易から日台合併企業まで

4. 内地研究員の受入れ

氏名・所属・身分	期間	研究課題
白水 紀子 (横浜国立大学教育人間科学部助教授)	1998. 5. 1 ～99. 2. 26	フェミニズムの視点による中国近現代文学の再考

5. 日本学術振興会特別研究員(博士課程修了者)の受入れ

1998年度

氏名	研究課題
高田 卓	サハラ以南のアフリカにおける認識とコミュニケーションの造形特性—冗談関係と忌避関係をめぐって
吉田 京子	十二イマーム・シーア派のイマーム論の構造—ガイバ論の解釈を通して
黒木(松井)真子	自由貿易体制の形成過程とオスマン帝国—近代国際体系の拡大理論の再検討

1999年度

氏名	研究課題
黒木(松井)真子	自由貿易体制の形成過程とオスマン帝国—近代国際体系の拡大理論の再検討
吉田 京子	十二イマーム・シーア派のイマーム論の構造—ガイバ論の解釈を通して
佐藤 齊華	移住・開発・伝統—ヒマラヤ山地民社会のグローバル化とローカル化
中川 恵	君主制「国民国家」論—モロッコとヨルダンの事例
堀井 優	中世末・近世初頭における東地中海世界秩序の変容
近藤 浩之	馬王堆漢墓帛書周易と漢代易学の総合的研究

6. 海外との図書寄贈・交換

海外の研究機関と、『東洋文化研究所紀要』、『東洋文化』、『センター叢刊』『明日の東洋学』等の本研究所発行の図書の寄贈および交換を行っている。寄贈およ

び交換先は33か国、218機関に及んでいる。なお、国内については293機関と寄贈・交換を行っている。

G 学内教育参加

1. 大学院教育

研究所（協力）講座

当研究所は五つの研究科に協力講座を出し、大学院教育を分担している。

研究科	専攻	講座名
人文社会系	基礎文化研究	東アジア美術史学
	アジア文化研究	比較アジア社会文化論・東アジア社会文化論・南アジア社会文化論・西アジア社会文化論
法学政治学	基礎法学	学際基礎法学
	政治	学際政治学
経済学	現代経済	アジア経済
	経済史	アジア経済史
総合文化	超域文化科学	比較民族誌
	地域文化研究	環インド洋地域文化研究
	国際社会科学	国際経済協力論・世界システム論
農学生命科学	農業・資源経済学	汎アジア経済論
新領域創成科学研究科	環境学専攻	国際環境協力コース・地域間連関・交流学分野
学際情報学府		

大学院担当教官

講義を担当している教官は次の通りである。

1998年度

研究科	専攻	担当教官
人文社会系	基礎文化研究	小川

	アジア文化研究	岡本・濱下・宮嶋・黒田・平勢・蜂屋・ 丘山・尾崎・巖鋒・中里・上村・ 永ノ尾・鈴木・羽田・後藤・鎌田
法学政治学	基礎法学	
	政治	猪口・田中・鈴木
経済学	現代経済	高橋・柳澤・長澤
	経済史	加納
総合文化	超域文化科学	関本・岡本
	地域文化研究	松井・柳澤・中里・鈴木・長澤・羽田・ 後藤
	国際社会科学	原・田中
農学生命科学	農業・資源経済学	原
1999 年度		
人文社会系	基礎文化研究	小川・榎屋・板倉
	アジア文化研究	岡本・濱下・宮嶋・黒田・平勢・甘・ 丘山・尾崎・巖・中里・上村・永ノ尾・ 鈴木・羽田・後藤・鎌田
法学政治学	基礎法学	高見澤
	政治	猪口・田中・鈴木
経済学	現代経済	高橋・柳澤・長澤
総合文化	超域文化科学	関本・岡本
	地域文化研究	松井・柳澤・中里・鈴木・長澤・羽田・ 後藤
	国際社会科学	原・田中
農学生命科学	農業・資源経済学	原・池本
新領域創成科学研究科	環境学	池本
2000 年度		
人文社会系	基礎文化研究	小川・榎屋・板倉
	アジア文化研究	岡本・濱下・宮嶋・黒田・平勢・甘・ 丘山・橋本・尾崎・中里・上村・ 永ノ尾・鈴木・羽田・後藤・鎌田
法学政治学	基礎法学	高見澤

	政治	猪口・田中・鈴木
経済学	現代経済	高橋・柳澤・長澤
	経済史	加納
総合文化	超域文化科学	関本・岡本・名和
	地域文化研究	松井・加納・柳澤・中里・鈴木・長澤・ 羽田・後藤
	国際社会科学	原・田中
農学生命科学	農業・資源経済学	原・池本
新領域創成科学研究科	環境学	菅
学際情報学府		田中・平勢

2. 学部教育

講義を担当している研究所スタッフは次の通りである。

1998年度

文学部	平勢・蜂屋・小川・後藤
教養学部	田中・関本・黒田・加納・柳澤・中里・後藤

1999年度

文学部	平勢・小川・後藤・樹屋・板倉
教養学部	田中・関本・加納・柳澤・中里・羽田
経済学部	黒田

2000年度

文学部	平勢・小川・丘山・後藤・樹屋・板倉
教養学部	田中・関本・加納・柳澤・中里・羽田
経済学部	高橋

H 刊行物一覧

1. 東洋文化研究所紀要

第136冊（1998年12月）

吉益東洞『古書医言』の文献学的考察

——とくに自筆原稿との校合によって

館野 正美

冒襲『影梅庵憶語』訳注（一）

大木 康

印から見た南越世界（前編）

——嶺南古璽印考

吉開 将人

大乘經典編纂過程に見られるコンテクストの移動

——〈如来の遺骨に関する対論〉を巡って

鈴木 隆泰

揺籃期ジャワ農村の村落と「耕作者」

——バングル県『詳細査定簿』の分析

加納 啓良

中国宗教の原質としての「宇宙神教」

——中国宗教の全体構造に関するモデル

前川 亨

兪吉濬の近代国家観

金 鳳珍

神の国、神の民、聖霊の風

——バプアニューギニアにおける聖霊運動と神権国家への希求

塩田 光喜

現代の戦争とその終結

——冷戦終結の影響

原田 至郎

第137冊（1999年3月）

印から見た南越世界（中篇）

——嶺南古璽印考

吉開 将人

玉皇廟から永福寺へ

——『金瓶梅』の構想（続）

大塚 秀高

冒襲『影梅庵憶語』訳注（二）

大木 康

魯迅の祖父周福清致（十一）

——その家系、生涯及び人物像について

松岡 俊裕

19世紀ダマスクスのイスラム法廷文書（2）

——サーリヒーヤ街区における社会経済関係	三浦 徹
イスファハーンのマドラサ調査から	
——建築形態と分布状況について	深見奈緒子
The Construction of Gujarati Identity in	
the Late Nineteenth Century: Debates over	
Language, Literature and History	Riho Isaka
シヴァ教における三十六原理 (tattva) をめぐる議論	戸田 裕久
ラージャシェーカラ作 <i>Kāvyaṁīmāṁsā</i> 訳注 (第1章～第3章)	上村 勝彦
生天と涅槃の関係	
——仏教文化史の視点から	金 漢益
アユタヤ時代における徭役制度の「創造」	小泉 順子
講史小説と歴史書(2)	
——『残唐五代史演義』、『南宋志伝』の構造と変容	上田 望
中国と韓国の経済関係	河合 弘子
兪吉濬の国際秩序観	
——朝貢体系と国家平等秩序の間	金 鳳珍
※小倉泰助教授 略歴・著作目録	
※蜂屋邦夫教授 略歴・著作目録	
第138冊 (1999年12月)	
律と例の間	
——明代贖法を通じてみた旧中国法の一斑	陶安あんど
冒襄『影梅庵憶語』訳注(三)	大木 康
中国開港期の外国商社	金田 真滋
金光明経如来寿量品の発展過程より見た如来の寿命と遺骨	鈴木 隆泰
中国語動詞と形容詞とが構成する統合型の文法的意義特徴(その1)	
——動詞と形容詞“清楚”の結びつきを通して	大滝 幸子
日本華人の家族経営・社会組織とネットワーク	
——家族企業の核分裂と商業ネットワークの拡張	廖 赤陽
洛陽出土伝世品青銅器研究(一)	竹内 康浩
第139冊 (2000年3月)	
印からみた南越世界(後篇)	
——嶺南古璽印考	吉開 将人

『祖堂集』牛頭法融章疏證

- 『祖堂集』研究會報告之一 丘山 新・衣川 賢次・小川 隆
西廂記の「注疏」
- 王驥徳・毛奇齡による戯曲の解説 廣瀬 玲子
シャイフ・ターイファ・トゥースィーのガイバ論 吉田 京子
イスファハーンのサファヴィー朝期の住宅に関する一考察 深見奈緒子
前4千年紀の西アジアにおけるワイン交易
- ゴディン・テベからの一考察 小泉 龍人
『甘露の水瓶 (Amṛtakunḍa)』とスーフィー修道法 榊 和良
Writing of History: the Notion of Gujarat and the Gujaratis
in the Late Nineteenth Century Riho Isaka
涅槃経系經典群における空と実在 鈴木 隆泰
鄭観応の開明思想
- その文明論的な解釈 金 鳳珍
コンピュータ上におけるクメール語文字利用の現状と改善試案 原田 至郎
1950年代初期のタイ農家家計の経済活動
- 農家家計の主体均衡からの接近 新谷 正彦
18世紀中葉フィリピンにおける中国人移民社会のカトリック化と
中国系メスティーゾの興隆
- 「結婚調査文書」を手がかりとして 菅谷 成子

2. 東洋文化

第79号(1999年3月) 特集“アジア研究とコンピュータ利用”

- 現代における漢字の新要素 高田 時雄
手書き文字の外字化について 平勢 隆郎
現代中国書データベースの構成と問題点 岡本 さえ
現代中国書データベースにおける叢書・多巻本のレコード形式の
設計とその改良 檜垣 泰彦
『三国志平話』データベースの構築——Unicodeテキストの利点と
問題点 二階堂善弘
計算機およびインターネットにおける中国語環境 官 寧
コンピュータでアラビア文字を使う 林 佳世子

メーリングリストを利用したアジア研究における コミュニケーション	鈴木 隆泰
オンライン情報とテキストファイル・データベース——インドネシア 政治経済動向分析における活用	加納 啓良
バーチャル文庫構想について	大塚 秀高
和古書目録データベースの構築をめぐる	山田 直子
インド学仏教学論文データベース (INBUDS) 検索システムの 構築	相場 徹/生出 恭治

第80号(2000年3月) 特集“インド亜大陸の宗教・民族紛争”

序	松井 健
生活世界の信仰から見直すコミュニナリズム現象 ——チェンナイ(マドラス)市における1994~98年の参与観 察と聞き書きを中心に	関根 康正
北ビハール、低カーストの儀礼の歌にみられる、ヒンドゥー・ ムスリムの関係	永ノ尾信悟
ラージャスターンの一スーフィー聖者廟におけるコミュニナリズム ズィークリーはムスリムか? ——パキスタン・マクラーン地方における宗教問題の重層性	三尾 稔 松井 健

3. 東洋文化研究所研究報告 (*印は在庫なし)

- *1. 仁井田 陸『中国の農村家族』 1952
- *2. 周藤 吉之『中国土地制度史研究』 1954
- *3. 泉 靖一・斎藤 廣志『アマゾン その風土と日本人』 1954
- *4. 大林 太良『東南アジア大陸諸民族の親族組織』 1955
- *5. 結城 令聞『世親唯識の研究 上』 1956
- *6. 関野 雄『中国考古学研究』 1956
- *7. 窪 徳忠『庚申信仰』 1956
- *8. 江上 波夫他『館址 東北地方における集落址の研究』 1958
- *9. 仁井田 陸『中国法制史研究 刑法』 1959
- *10. 仁井田 陸『中国法制史研究 土地法・取引法』 1960
- *11. 米澤 嘉圃『中国絵画史研究』 1961

- *12. 結城 令聞『唯識学典籍志』 1962
- *13. 仁井田 陞『中国法制史研究 奴隸農奴法・家族村落法』 1962
- *14. 築島 謙三『文化心理学基礎論』 1962
- *15. 窪 徳忠『庚申信仰の研究 年譜篇』 1962
- *16. 仁井田 陞『中国法制史研究 法と慣習・法と道德』 1964
- *17. 鎌田 茂雄『中国華嚴思想史の研究』 1965
- *18. 江上 波夫『アジア文化史研究 要説篇』 1965
- *19. 泉 靖一『济州島』 1966
- *20. 江上 波夫『アジア文化史研究 論考篇』 1967
- *21. 鈴木 敬『明代絵画史研究 浙派』 1968
- *22. 窪 徳忠『庚申信仰の研究 島嶼篇』 1969
- *23. 中根 千枝『家族の構造 社会人類学的分析』 1970
- *24. 窪 徳忠『沖縄の習俗と信仰』 1971
- *25. 川野 重任『農業発展の基礎条件』 1972
- *26. Nakamura Kojiro, *Ghazali on Prayer*, 1973
- *27. 窪 徳忠『増訂 沖縄の習俗と信仰』 1974
- *28. 鎌田 茂雄『宗密教学の思想史的研究』 1975
- *29. 松井 透『北インド農産物価格の史的研究 1861~1921年』 1977
- *30. 荒 松雄『インド史におけるイスラム聖廟 宗教権威と支配権力』
1977
- *31. 池田 温『中国古代籍帳研究 概観・録文』 1979
- *32. 田仲 一成『中国祭祀演劇研究』 1981
- *33. 松丸 道雄『東京大学東洋文化研究所蔵甲骨文字 図版篇』 1983
- *34. 田仲 一成『中国の宗族と演劇 華南宗族社会における祭祀組織・儀礼
及び演劇の相関構造』 1985
- *35. 鎌田 茂雄『中国の仏教儀礼』 1986
- *36. 松井 透『イギリス支配とインド社会 19世紀前半北インド史の一
研究』 1987
- *37. 鎌田 茂雄『新羅仏教史序説』 1988
- *38. 斯波 義信『宋代江南経済史の研究』 1988
- *39. 田仲 一成『中国郷村祭祀研究 地方劇の環境』 1989
- *40. 濱下 武志『中国近代経済史研究 清末海関財政と開港場市場圏』
1989
- *41. 上村 勝彦『インド古典演劇論における美的経験 Abhinavagupta の

rasa 論』 1990

42. 宮嶋 博史『朝鮮土地調査事業史の研究』 1991
43. 柳澤 悠『南インド社会経済史研究 下層民の自立化と農村社会の変容』 1991
44. Matsutani Toshio ed., *Tell Kash kashok*
The Excavations at Tel No. II, 1991
45. 山田 三郎『アジア農業発展の比較研究』 1992
- *46. 蜂屋 邦夫『金代道教の研究 王重陽と馬丹陽』 1992
- *47. Tomosugi Takashi, *Reminiscences of Old Bangkok:*
Memory and the Identification of a Changing Society, 1993
- *48. 田仲 一成『中国巫系演劇研究』 1993
- *49. 原 洋之介『東南アジア諸国の経済発展 開発主義的政策体系と社会の反応』 1994
50. 岡本 さえ『清代禁書の研究』 1996
- *51. 丸尾 常喜『魯迅『野草』の研究』 1997
- *52. 末成 道男『ベトナムの祖先祭祀 潮曲の社会生活』 1998
53. 蜂屋 邦夫『金元時代の道教 七真研究』 1998
54. 小倉 泰『インド世界の空間構造 ヒンドゥー寺院のシンボリズム』
1999
55. 平勢 隆郎『左傳の史料批判的研究』 1999
56. 上村 勝彦『インド古典詩論研究 アーナンダヴァルダナの dhvani 理論』
1999
57. 岡本 さえ『近世中国の比較思想』 2000

4. 東洋文化研究所叢刊 (*印は在庫なし)

- *1. 鎌田 茂雄『華嚴学研究資料集成』 1983
2. 深井 晋司編『ターク・イ・ブスターンⅢ 実測図集成』 1983
- *3. 鎌田 茂雄『禅典籍内華嚴資料集成』 1984
4. Nakane Chie ed., *Social Science and Asia*, 1984
- *5. 蜂屋 邦夫編『儀禮士冠疏』 1984
- *6. 鎌田 茂雄『道藏内仏教思想資料集成』 1986
7. 山田 三郎編『中部タイ稲作農村の経済変容』 1986

- *8. 蜂屋 邦夫編『儀禮士昏疏』
- *9. Seki Hiroharu, *The Asia-Pacific in the Global Transformation* 1987
- *10. 蜂屋 邦夫編『中国道教の現状 道士・道協・道観』 1990
- *11. 池田 温編『中国古代寫本識語集録』 1990
- *12. Tomosugi Takashi, *Rethinking the Substantive Economy in Southeast Asia*, 1991
- *13. 松丸 道雄編『甲骨文字字釋綜覧』 1993
- *14. 加納 啓良編『中部ジャワ農村の経済変容 チョマル郡の85年』 1994
- *15. 平勢 隆郎『新編史記東周年表 中國古代紀年の研究序章』 1995
- 16. 蜂屋 邦夫『中国の道教 その活動と道観の現状』 1995
- *17. 羽田 正『シャルダン『イスファハーン誌』研究 17世紀イスラム圏都市の肖像』 1996
- *18. 平勢 隆郎『中國古代紀年の研究 天文と曆の検討から』 1996

5. イラク・イラン遺跡調査団報告

- 『テル・サラサート I』*1958, 『同II』*1970, 『同III』1975, 『同IV』1981,
- 『マルヴ・ダシュト I』*1962, 『同II』*1962, 『同III』1973
- 『ファハリアン I』*1963
- 『西アジアの人類学的研究 I』*1963, 『同II』*1968
- 『デーラマン I』*1965, 『同II』*1966, 『同III』*1968, 『同IV』1971
- 『ターク・イ・ブスターン I』*1969, 『同II』*1972, 『同III』1983, 『同IV』1984
- 『ハリメジャン I』1980, 『同II』1982

6. インド史跡調査団報告

- 『デリー：デリー諸王朝時代の建造物の研究』 第I巻 遺跡総目録 *1967,
- 第II巻 墓建築 *1969, 第III巻 水利施設 *1970

7. 東アジア部門美術研究分野報告

- 『中國繪畫總合圖録』
- 第一卷 アメリカ・カナダ篇 *1982
 - 第二卷 東南アジア・ヨーロッパ篇 *1982
 - 第三卷 日本篇Ⅰ 博物館 *1983
 - 第四卷 日本篇Ⅱ 寺院・個人 *1983
 - 第五卷 総索引 *1983
- 『中國繪畫總合圖録 續編』
- 第一卷 アメリカ・カナダ篇 *1997
 - 第二卷 東アジア・ヨーロッパ篇 *1997
 - 第三卷 日本篇 *1999
 - 第四卷 総索引 *2000

8. 蔵書目録

- 『東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録』 *1973
- 『東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録 書名人名索引』 *1975
- 『東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録』 重版 *1981, *1996
- 『東京大学東洋文化研究所現代中国書分類目録』 *1996
- 『東京大学東洋文化研究所現代中国書分類目録』 索引 *1996

9. その他

- 『アジアの社会と文化』 創立40周年記念論集 全三巻 *1982
- 『東洋文化研究所の50年』 創立50周年記念誌 1991
- 『アジアの文化と社会』 創立50周年記念論集 全三巻 *1992
- 『東京大学東洋文化研究所外部評価報告書』 1996
- 『東京大学東洋文化研究所外部評価報告書』 *1999
- Conference Proceedings, Asia in the Twenty-First Century : Toward a New Framework of Asian Studies,* *1996

I 執筆著書・論文等総数 受賞

本研究所の教官が1998・99年度に発表した著書・論文等の点数は次の通りである。

著書 27冊, 論文 134本, その他 197点

本研究所の教官が1998・99年度に受賞した賞は次の通りである。

日本オリエント学会奨励賞 菊地 達也 1999年

VIII 所員の活動

汎アジア部門

原 洋之介 ほら ようのすけ

略 歴

1944.2 生。1967 東大・農・農経卒，1969 年同大大学院農学・農経・修士課程終了，1972 同博士課程退学。1976 農学博士（東大）。1972 年東文研助手，その間 1975 年から 1977 年まで国際連合アジア太平洋経済統合委員会（バンコク）に派遣，1978 国際開発センター研究員（非常勤），東大農学部非常勤講師，1979 東文研助教授，1988 同教授。1998 以降東洋文化研究所長，東京大学評議員，ならびに附属東洋学研究情報センター長。

研究活動の概要

理論経済学がその機能をときあかしている市場経済に関して地域研究の視点からその理論の拡張をはかると同時に，地域研究が焦点をあてているアジア各地の社会構造に対応して市場経済の展開に地域性がみられることを比較論的に解明する研究を続けている。

過去の主要業績（1998.3 まで）

『東南アジア諸国の経済発展』東文研報告 1994 xvii+464 頁

『アジア・ダイナミズム』NTT 出版 1996 243+x 頁

『開発経済論』岩波書店 1996 viii+218 頁

ほか多数

過去 2 年間の研究業績

『エリア・エコノミックス』NTT 出版 1999 247+vii 頁

『アジア経済論』NTT 出版 1999 459 頁

ほか 25 点

学外活動

京都大学東南アジア研究センター併任教授（1997.11～1998.3）、農林省農業総合研究所専門委員（1990.4以降）、大蔵省財政金融研究所特別研究官（1995.4以降）、国際開発センター研究顧問（1985.4以降）、大蔵省外国為替等審議会委員（1997.10～1998.6）

池本 幸生 いけもと ゆきお

略 歴

1956.6 生。1980 京大経卒。1993 京都大学博士（経済学）。1980 アジア経済研究所入所，1987 海外派遣員（タイ国チュラロンコン大学社会科学研究所，1989年まで），1990 アジア経済研究所退職，同年 京都大学東南アジア研究センター助教授，1993 東南アジア研究センター・バンコク連絡事務所駐在（94年まで），1998 東文研助教授。

研究活動の概要

- (1) 東南アジア・中国の所得分配と貧困
- (2) 世界所得分配の歴史的研究
- (3) 中国雲南省：跨境経済論
- (4) ベトナムにおける少数民族の貧困問題

過去の主要業績（1998.3 まで）

Income Distribution in Thailand: Its Changes, Causes and Structure, Institute of Developing Economies, 1992. xiii+192 頁

「ラーマ四世期の『消極的』経済政策」『東南アジア研究』31-4 1993.9 299-324 頁

“An Expansion of Cottage Industry in Northeast Thailand—A Case of Triangle Pillow in Yasothon Province”, 『東南アジア研究』33-4 1996.3, 122-137 頁

ほか多数

過去2年間の研究業績

「ASEAN 4 の所得分配」大蔵省財政金融研究所編『ASEAN 4 の金融と財政の歩み——経済発展と通貨危機』（1998年11月）157-171 頁

翻訳：A. K. セン『不平等の再検討——潜在能力と自由』（野上裕生，佐藤仁と共訳）岩波書店 1999年7月15日 xxiii+263 頁のうち1～84 頁

ほか 12 点

本学以外での教育活動

地域発展論特殊問題（京都大学人間・環境学研究科 1993～97）、経済発展特論論（京都大学経済学研究科 1992～97）、大阪外国語大学タイ文化特殊講義Ⅲ（非常勤講師 1995～1999）、東京外国語大学アジア地域研究Ⅱ（非常勤講師 1998～1999）

学外活動

東アジア経済学会，進化経済学会，アジア政経学会

猪口 孝 いのぐち たかし

略 歴

1944.1 生。1966 東大・教養・教養卒，1968 東大社会学，国際関係論・修士号，1974 マサチューセッツ工大政治学部大学院政治学博士号，1969-1970 上智大学助手，1974-1977 上智大外国語助教授，1977-1988 東大東文研助教授，1988-現在 同大教授，1984-1986 同上東洋学文献センター助教授，1993-1995，国際連合大学兼任研究員，1995-1997 国際連合大学上級副学長，1977-1978 スイス・ジュネーブ大学客員教授，1983-1984 ハーバード大学客員研究員。

研究活動の概要

アジアの国際政治，日本政治，政治理論の研究。刊行は和書 38 冊，洋書 18 冊，論文は数百本。社会科学の引用索引として最も権威のある Social Science Citation Index に頻りに引用される。

過去の主要業績（1998.3 まで）

The Political Economy of Japan (Stanford, Stanford University Press, 1988)

566 頁

Japan's International Relations (London, Westview Press, 1991) 190 頁

ほか数十点

過去 2 年間の研究業績

Democracy, Governance and Economic Performance in East and Southeast Asia
(United Nations University Press, 2000) 371 頁

International Security Management and the UN (United Nations University Press, 1999) 489 頁

The Changing Nature of Democracy (United Nations University Press, 1998)

285 頁

ほか数十点

本学以外での教育活動

早稲田大学政治経済学部（1999年度）

学外活動

日本政治学会（理事，1998まで），日本国際政治学会（副理事長），全米国際政治学会（理事）

田中 明彦 たなか あきひこ

略 歴

1954.8生。1977東大・教養・教養卒。1981 Ph.D.（政治学・マサチューセッツ工大）。1981平和・安全保障研究所研究員，1983東大教養学部助手，1984東大教養学部助教授，1986-1987ルール大学ボーフム客員教授，1990東文研助教授，1994-1995オックスフォード大学セントアントニーズカレッジ客員研究員，1998東文研教授。

研究活動の概要

世界システムについての理論的・実証的な分析，現代東アジアの国際政治の分析，および国際政治分析のためのデータベース作成ならびにコンピュータによる分析手法の開発を行っている。

過去の主要業績（1998.3まで）

『世界システム』東京大学出版会 1989 251頁

『日中関係 1945-1990』東京大学出版会 1991 246頁

『新しい「中世」』日本経済新聞社 1996 307頁

『安全保障』読売新聞社 1997 382頁

ほか著書3点，論文69点，その他多数

過去2年間の研究業績

“Issues for Japan’s East Asian Diplomacy” *Japan Review of International Affairs* 13, no.1 (Spring 1999): 3-16頁

“Dynamic Stability: Cooperative Strategies for Averting Crisis in East Asia” *Harvard International Review* 21, no. 3 (Summer 1999): 72-75頁

「国家主権と国際正義」『アステイオン』52（1999年11月）159-170頁

ほか論文6点，その他92点

学外活動

アジア政経学会（常務理事）、日本国際政治学会（理事、企画委員、対外交流委員）、経済審議会臨時委員（1999）、アジア-ヨーロッパ・ビジョン・グループ日本委員（1998.4-1999.3）、東アジア・ビジョン・グループ日本委員（1999.10-）

原田 至郎 はらだ しろう

略 歴

1967.10 生。1990 東大・教養・教養卒、同年東大大学院総合文化・国際関係論・修士課程入学、1992 同修了、同年同博士課程進学、1994 日本学術振興会特別研究員、1996 同採用期間満了、同年東大大学院博士課程退学。同年東文研助手。

研究活動の概要

研究対象としては戦争、研究手法としてはコンピュータ利用に主な関心がある。現在は、武力紛争の終結について統計的分析やシミュレーションを試みる一方、クメール文字のコンピュータ処理システムの研究開発を共同で行っている。

過去の主要業績（1998.3 まで）

「世界システムレベルの戦争相関因子」『相関社会科学』2・3 1992 135-151 頁

「近代世界システムにおける戦争とその統計的記述——1495 年から 1989 年まで」山本吉宣・田中明彦編『戦争と国際システム』東京大学出版会 1992 第2章 73-102 頁

「国際政治の数量分析——戦争研究における例」『オペレーションズ・リサーチ』43-7 1998 378-382 頁

「総理演説にみる日本の政治指導者の戦略意識の変遷」神谷万丈編『国家戦略序説——外交・安全保障研究会報告書』財団法人日本国際フォーラム 1998 第3章 19-32 頁

ほか3点（論文2点、翻訳1点）

過去2年間の研究業績

「現代の戦争とその終結——冷戦終結の影響」『東文研紀要』136 1998 1-21 頁

“Regional arrangements, the United Nations, and security in Asia (co-authored with Akihiko Tanaka),” in Muthiah Alagappa and Takashi Inoguchi eds., *International security management and the United Nations*,

United Nations University Press, 1999, 323-346 頁

「コンピュータ上におけるクメール語文字利用の現状と改善試案」『東文研紀要』

139 2000 382-365 頁

ほか1点 (論文1点)

学外活動

日本国際政治学会, 国際法学会, 日本政治学会

松井 健 まつい たけし

略 歴

1949.6 生, 1972 京大・理卒, 1974 京大大学院理・動物・修士課程修了, 1976 京大大学院理・動物・博士課程退学, 同年京大人文学部研究所助手, 1980 理学博士 (京大), 1983 神戸学院大教養部助教授, 1990 神戸学院大人文学部助教授, 1991 同教授, 1992 東文研助教授, 1994 同教授。

研究活動の概要

認識人類学を中心にした文化記述のための方法論に関する研究, 自然をめぐる文化的なプラクシスについての通文化的研究, および, アフガニスタン・イラン東部・パキスタン・インド西部を対象とする西南アジア乾燥地帯の諸文化の記述的研究。

過去の主要業績 (1998.3 まで)

『セミ・ドメスティケーション——農耕と遊牧の起源再考』海鳴社 1989
iv+244 頁

『認識人類学論攷』昭和堂出版 1991 ix+243 頁

『自然の文化人類学』東京大学出版会 1997 xviii+218 頁

ほか多数

過去2年間の研究業績

「周辺性と民族的自立——バシュトゥーン人とバルーチ人の例から」清水昭
俊編『周辺民族の現在』世界思想社 1998 109-127 頁

『文化学の脱=構築——琉球弧からの視座』榕樹書林 1998 vi+232 頁

「遊牧の文化的特質についての試論——西南アジア遊牧民を中心として」『国立
民族学博物館研究報告別冊』20 1999 493-516 頁

ほか論文3点

学外活動

日本民族学会，生態人類学会，日本人文地理学会，国立民族学博物館研究協力者・共同研究員，沖縄国際大学南島文化研究所特別研究員，国立歴史民俗博物館共同研究員。

菅 豊 すが ゆたか (1999.10 配置換着任)

略 歴

1963.10 生。1986 筑波大・第一・人文卒，1989 筑波大大学院博士課程歴史・人類学・文化人類学（民俗学）・文学修士取得，1991 同・退学，同年国立歴史民俗博物館助手，1996 北海道大学文学部助教授，1998 博士（文学・筑波大）。

1999 東文研助教授。

研究活動の概要

東アジア（とくに日本，中国）社会における伝承的技術・社会システムが，環境の持続性可能性といかに連関しているか，という問題について，環境民俗学・民俗動物学的見地から考究している。

過去の主要業績（1998.3 まで）

「水辺」の生活誌——生計活動の複合的展開とその社会的意味『日本民俗学』181 1990 41-81 頁

「水辺」の技術誌——水鳥獲得をめぐるマイナー・サブシステムの民俗知識と社会統合に関する一試論『国立歴史民俗博物館研究報告』61 1995 215-272 頁

「都市とムラの水鳥」塚本学編『ひとと動物の近世——つきあいと観察』朝日新聞社 1995 35-55 頁

「閉じこめられたヒツジたち——中国江南農耕社会のヒツジ飼育から見た商品経済の発展」『東文研紀要』135 1998 95-139 頁

ほか多数

過去 2 年間の研究業績

「深い遊び——マイナー・サブシステムの伝承論」篠原徹編『現代民俗学の視点 1 民俗の技術』朝倉書店 1998 217-246 頁

「闘コオロギからみた中国漢人都市民の自然観」『北海道大学文学部紀要』47-4 1999 25-92 頁

「川の景観——大川郷にみる commons としての川」鳥越皓之編『講座人間と環

境4 景観の創造』昭和堂 1999 92-117 頁

ほか6点

学外活動

日本民俗学会, 日本民族学会, 生態人類学会, ヒトと人間の関係学会, 日本民族学学会, 国立民族学博物館共同研究員, 国立歴史民俗博物館共同研究員

関本 照夫 せきもと てるお

略 歴

1947.1 生。1972 東大・教養・教養卒, 1974 修士(社会学・東大)。1976 国立民族学博物館助手, 1981 一橋大社会学部講師, 1982 カリフォルニア大学バークレイ校人類学部客員研究員(1984まで), 1983 一橋大社会学部助教授, 1987 東文研助教授, 1991 東文研教授。

研究活動の概要

専門は文化人類学・東南アジア地域研究。インドネシアのジャワ島を中心に、農村の社会文化変容, 政治と文化, 海外移民などの研究を行ってきた。現在は、伝統工芸と地場産業の研究を東南アジアの他の地域との比較で進めている。

過去の主要業績(1998.3まで)

「サウイト事件の文化論的考察」鈴木中正編『千年王国的民衆運動の研究』東京大学出版会 1982年 491-558頁

『現代の社会人類学』全3巻(共編著)東京大学出版会 1987 665頁

「ジャワ人のヒエラルキーと自由——村人の集いの二つの形」『東文研紀要』116 1992 247-293頁

『国民文化が生れる時』(共編著)リプロポート 1994 271頁

ほか32点

過去2年間の研究業績

「『伝統文化』概念が周縁化するもの——現代インドネシアの文化状況」坪内良博編『総合的地域研究を求めて——東南アジア像を手がかりに』京都大学学術出版会 1999 135-161頁

「今日のインドネシア・バティック産業」『染織α』1999-7 33-35頁

他2点。論文2点, その他2点

本学以外での教育活動

聖心女子大学(1998・99年度), 富山大学人文学部(1998年度), 大阪大学人

間科学部（1998年度）、弘前大学人文学部（1999年度）

学外活動

日本民族学会、東南アジア史学会、Japan-Southeast Asia Forum (Chair)、American Anthropological Association、Association for Asian Studies、国立民族学博物館共同研究員（1998.4-2000.3）、東京外語大学・AA研共同研究員（1998.4-2000.3）、中部大学中部高等学術研究所客員教授（1998・99年度）、財団法人国際文化会館評議員（1998.4-2000.3）

名和 克郎 なわ かつお（2000.4採用）

略 歴

1966.11生。1990東大・教養・教養卒、1992年東大大学院総合文化・文化人類学修士課程修了、1999東大大学院総合文化・超域文化科学博士課程修了、博士（学術）。1992ネパール王国トリブヴァン大学研究生（1995まで）、1996日本学術振興会特別研究員（DC2、1998まで）、2000日本学術振興会特別研究員（PD、同年3月まで）、2000東文研助教授。

研究活動の概要

ネパール・インド国境のヒマラヤ地域に位置するビャンス地方での調査をもとに、民族範疇を含む社会範疇の構成、儀礼の変容過程とそれに対する慣習的行為や語られる規範の関係といった主題について、民族誌的な研究を行ってきた。

過去の主要業績（1998.3まで）

「民族論の発展のために——民族の記述と分析に関する理論的考察」『民族学研究』57-3 1992 297-317頁

「ネパール、ビャンスにおける民族諸範疇とその用法」『民族学研究』61-4 1997 546-564頁

“Ethnic Categories and International Border: The Case of Byans, Far-Western Nepal” *Journal of the Indian Anthropological Society*, 33-1 (1998): 65-75頁

過去2年間の主要業績

「ネパール、ビャンスにおける神々の祭祀」『南アジア研究』10（1998）:32-55。
博士論文「もう一つの〈近代〉の布置——ネパール、ビャンスおよび周辺地域における儀礼と社会範疇に関する民族誌的研究」（1999、x+454pp）

本学外での教育活動

東京外国語大学外国語学部 (1998・99年度)

学外活動

日本民族学会, 日本南アジア学会, 国立民族学博物館共同研究員 (1998.4~)

岡本 サエ おかもと さえ

略 歴

1941.3生。1964 東大・教養学部卒, 1966 東大大学院人文・比較文化・修士。
パリ大学人文学部博士 (Docteur de l'universite de Paris)。1969 東大教養学部
助手, 1971 東文研助手, 1977 千葉大教養部助教授, 1990 年東洋学文献センター
教授 (1998 まで), 東文研教授兼務, 1991 同文献センター主任兼務 (1998 まで),
1999 東文研教授。

研究活動の概要

東アジアの近世社会を, 1) 比較思想 2) 出版文化 に焦点を絞って研究。1)
『近世中国の比較思想』。アジア比較文化の解題集を作成中。2) 『清代禁書の研究』
他。文献センター以来, 「現代中国書データベース」を作成。

過去の主要業績 (1998.3 まで)

『清代禁書の研究』東文研紀要別冊 東京大学出版会 1996 vii+734 頁

「徐光啓と夷狄」『異文化を生きた人たち』中央公論社 1993 48-71 頁

「中国とヨーロッパの文化交流」『中世史講座』11 学生社 1996 274-306 頁

ほか 27 点

過去 2 年間の研究業績

『近世中国の比較思想』東文研紀要別冊 東京大学出版会 2000 vii+600 頁

「現代中国書データベースの構成と問題点」『東洋文化』79 1999 15-38 頁

“The Situation of Chinese Censorship under Emperor Yongzheng,” *The Memoirs of Toyobunko*, 56, 1998: 49-62 頁

教育活動

東京大学大学院総合文化研究科 (1998・1999 年度), 東京大学大学院 人文社会
系研究科 (1998・1999 年度), 横浜市立大学大学院国際文化研究科 (1998・1999 年
度)

学外活動

日仏東洋学会 (評議員, 監事), 中国社会文化学会 (評議員), R.B.S. (中国研

東アジア部門 (第一)

濱下 武志 はました たけし

略 歴

1943. 11 生。1972 東大・文・東洋史卒, 1974 東大大学院人文・東洋史・修士課程修了, 同年同博士課程入学, 1976 香港大センター・オブ・エイジアン・スタディーズにパートタイム・リサーチ・アシスタント (1977 まで), 1977 東洋文庫奨励研究員 (1979 まで), 1978 東大大学院博士課程退学, 1979 一橋大経済学部専任講師, 1981 同助教授, 1982 東文研助教授, 1988 同教授。1996 東文研所長及び東大評議員並びに東洋学文献センター長 (1998 まで)。

研究活動の概要

東南アジア華人と中国華南との歴史的な結びつきを, 香港に焦点を当てて研究・調査を行っている。その内容は, 華僑送金のメカニズムと, 華南・東南アジア間の商業ネットワークの研究をテーマとしている。

過去の主要業績 (1998. 3 まで)

『中国近代経済史研究——清末海関財政と開港場市場圏』東文研研究報告
1989 xx+730 頁

『近代中国の国際的契機』東京大学出版会 1990 x+315 頁

『朝貢システムと近代アジア』岩波書店 1997 xix+232 頁

“The Intra-regional System in East Asia in Modern Times”, in Peter J. Katzenstein ed., *Network Power, Japan and Asia*, Cornell University Press, Ithaca and London, 1997 113-135 頁

過去 2 年間の研究業績

「東南アジアをどう捉えるか (1) 中国世界から」坪内良博編著 『〈総合的地域研究〉を求めて』京都大学学術出版会 1999 285-315 頁

「アジア研究のなかの華僑研究」飯島渉編『華僑・華人史研究の現在』汲古書院 1999 323-343 頁

「アジア共同通貨構想と人民元」『大航海』31 1999 年 12 月 54-63 頁

学外活動

社会経済史学会（理事）アジア政経学会（理事）、沖縄県教育委員会『歴代宝案』編集委員

高見澤 磨 たかみざわ おさむ

略 歴

1958.6 生。1982 東大法卒。1984 法学修士（東大）。1994 博士（法学・東大）。1993 東大教養学部助手、1994 同退職、同年 立命館大学国際関係学部助教授、1997 同退職、同年東文研助教授、1998 海外研修（北京外国語大学北京日本学研究中心主任教授補佐）、1999 帰国。

研究活動の概要

従来、中華人民共和国における紛争と紛争解決、中華人民共和国における法源、中国法研究の作法、の3つを中心に研究を行ってきた。現在、清末以降の中華民国に至る中国近代法史研究にも着手している。

過去の主要業績（1998.3 まで）

「罪観念と制裁 中国におけるもめごとと裁きとから」『シリーズ世界史への問い 第5巻 規範と統合』岩波書店 1990 301-328頁

「中華人民共和国における法源」『法制史研究』40号 1991 77-110頁

「中華人民共和国法制資料」滋賀秀三編『中国法制史 基本資料の研究』東京大学出版会 1993 861-888頁

「中国法の調べ方」社会主義法研究会『社会主義法のうごき』1997年3月別冊 40-48頁

ほか38点

過去2年間の研究業績

『現代中国の紛争と法』東京大学出版会 1998 246頁

共著『現代中国法入門』有斐閣 1998 317頁

「中国法律現象中儒家思想因素及其他因素」陳鵬生・反町勝夫主編『儒家思想与現代道德和法治』吉林人民出版社 1998 117-122頁

ほか3点

本学以外での教育活動

北京日本学研究中心（1998年度）

学外活動

比較法学会，法制史学会（企画委員），中国社会文化学会，比較法史学会，日本現代中国学会，環日本海学会，「産業政策支援調査：アジア地域の経済システム改革」研究会委員（日本貿易振興会アジア経済研究所1999年度総合開発計画調査事業）

黒田 明伸 くろだ あきのぶ

略 歴

1958.2 生。1980 京都大学文学部卒，1982 修士（文学・京都大学）。1995 博士（経済学・京都大学）。1986 京都大学助手，1987 大阪教育大学講師，1989 名古屋大学助教授，1997.10 東洋文化研究所助教授。

研究の概要

伝統中国の貨幣・金融・市場構造・財政，ならびにそれらについての日本・朝鮮・インド・ヨーロッパとの比較史，16世紀以降の世界経済とアジア諸帝国との相互連関，地域流動性あるいは支払協同体の理論についての研究。

過去の主要業績（1998.3 まで）

『中華帝国の構造と世界経済』名古屋大学出版会 1994 337+19 頁

「清代銀錢二貨制の構造とその崩壊」『社会経済史学』57-2 1991.7 93-125 頁

「二〇世紀初期太原県にみる地域経済の原基」『東洋史研究』54-4 1996.3
103-136 頁

「伝統市場の重層性と制度的枠組み——中国・インド・西欧の比較」『社会経済史学』64-2 1998.7 115-138 頁

ほか論文 10 点

過去 2 年間の研究業績

「貨幣が語る諸システムの興亡」『講座 世界歴史 15』岩波書店 1999 年 3 月 263-285 頁

「16・7 世紀環シナ海経済と錢貨流通」歴史学研究会編『越境する貨幣』青木書店 1999 年 5 月 3-41 頁

“Another Monetary Economy: The Case of Traditional China”, A. J. H. Latham and H. Kawakatsu ed., *Asia Pacific Dynamism 1550-2000*, London, Routledge, 2000 pp. 187-198.

ほか論文 4 点

学外活動

社会経済史学会（編集委員）、東洋史研究会、歴史学研究会

平勢 隆郎 ひらせ たかお

略 歴

1954. 8 生。1979 東大・文・東洋史卒、1981 東大大学院人文・東洋史・修士課程修了、鳥取大学教育学部助手、同専任講師、同助教授、九州大学文学部助教授を経て、1992 年東文研助教授、1999 年同教授。

研究活動の概要

中国史上の大変革期である春秋戦国時代の歴史的性格は何かを一貫して追求してきている。この時代は、史料批判が他の時代に比較してより特殊な位置づけをもつので、考古史料の活用が不可欠となる。

過去の主要業績（1998. 3 まで）

『楚王と梟君』『史学雑誌』90-2 1981 年 36-56 頁、134-135 頁

『新編 史記東周年表——中国古代紀年の研究序章』（東洋文化研究所叢刊 15 輯）

東京大学東洋文化研究所・東京大学出版会 1995 v+670 頁

『中国古代紀年の研究——天文と暦の検討から』（東洋文化研究所叢刊 17 輯）

東京大学東洋文化研究所・汲古書院 1996 xi+270+202 頁

過去 2 年間の研究業績

『左傳の史料批判的研究』（東文研紀要別冊）東洋文化研究所・汲古書院 1998
xiv+681+34 頁

『史記 二二〇〇年の虚實』講談社 2000 268 頁

本学以外での教育活動

学習院大学文学部（1998・99 年度）、東京学芸大学（1998・99 年度）、仏教大学文学部（1999 年度）

学外活動

史学会、出土資料学会、日本甲骨学会、東洋学会、社会文化学会、九州史学会、東洋史研究会、東方学会、日本中国考古学会、島根考古学会、歴史学研究会、書学書道史学会

甘 懐真 かん かいしん (1999.9 採用)

略 歴

1963. 1 生。1985 台湾大学歴史系卒，1988 文学修士（台湾大学）。1993 文学博士（台湾大学）。1994 台湾の東呉大学副（助）教授，1995 台湾大学歴史系副教授，1999 より現職。

研究活動の概要

中国古代の礼制と国家構造を中心に研究を行ってきた。今後は礼制の観点から中国古代における政治的秩序の原理を検討していきたい。

過去の主要業績（1998.3 まで）

『唐代家廟礼制研究』台北，商務印書館 1991 150 頁

「中国中古時期「国家」的型態」『東呉大学歴史学報』1 1995 71-107 頁

「魏晉時期的安靜觀念：兼論古代威儀觀的發展」『台大歴史学報』20 1996 407-463 頁

過去 2 年間の研究業績

「政治制度史研究的省思——以六朝隋唐為例」『中華民國史專題論文集第四屆討論會』台北 国史館 1998 481-511 頁

「反逆罪与君臣關係」『唐律与国家社会研究』台北 五南圖書出版 1999 73-111 頁

「楊堅集团与隋朝開国——兼論隋朝立国文化政策」『第四届唐代文化學術研討會論文集』成功大学 1999 711-743 頁

本学以外の教育活動

台湾大学歴史系（1998・99 年度），東呉大学歴史系（1998・99 年度）

学外活動

台湾の中国唐代学会（秘書），新史学（常務社員）

吉開 将人 よしかい まさと (2000.3 退職)

略 歴

1967. 7 生。1990 東大・文・考古学卒，1992 東大大学院・人文科学・考古学・修士課程修了，同年同博士課程進学，同年中国北京大学留学，1994 帰国，1995 東大大学院博士課程中退，同年東文研助手，1996 香港大学 CAS 派遣，同年帰国，2000. 3 助手任期満了により退職。

研究活動の概要

おもに出土資料を用いながら、周辺地域との関わりのなかで、中国世界の形成過程を探究している。また近現代における文化財行政やアカデミー制度の形成過程にも関心を寄せ、そこから中国社会の変動を読み取ろうとしている。

過去の主要業績（1998.3まで）

「副葬品が語るもの——東アジア世界の中の南越文化」『中国・南越王の至宝』
毎日新聞社 1996.5 138～142頁

「先秦時代の「単字模」銘文鑄造法——中国古代の「活字」的な資料をめぐって」西野嘉章編『歴史の文字』東京大学出版会 1996.9 49～54頁

「再論東山系銅盃」『銅鼓和青銅文化的再探索——中国南方及東南亞地区古代銅鼓和青銅文化第三次国際学術討論会論文集』民族芸術雑誌社 1997.12 170～173頁

「銅鼓「再編」の時代——一千年紀のベトナム・南中国」『東洋文化』78 東京大学東洋文化研究所 1998.3 199～218頁

ほか5点

過去2年間の研究業績

「印からみた南越世界——嶺南古璽印考（前篇）」『東文研紀要』136 東京大学東洋文化研究所 1998.12 89～135頁「同（中篇）」『東文研紀要』137 1999.3 1～46頁「同（後篇）」『東文研紀要』139 2000.3 1～38頁

『世界美術大全集 東洋編 第2巻（秦・漢）』小学館 1998.9 共著 2つの章および作品解説担当

「銅鼓にみる「伝統」の諸相」『季刊考古学』66 雄山閣 1999.1 139～144頁

「近代中国と文物事業——広州とその周辺を例として」『論集 中国古代の文字と文化』汲古書院 1999.8 473～494頁

ほか3点

学外活動

日本中国考古学会（幹事）、東南アジア考古学会（幹事）、史学会、中国出土資料学会

陶安あんど すえやす あんど（1999.4採用）

略歴

1968.5月生。国籍：ドイツ。1992 京都大学学士（法学）。1994 京都大学修士

(法学)。2000 京都大学博士 (法学)。1997 年 4 月—1998 年 3 月京都大学法学部・助手, 1999 年 4 月より東京大学東洋文化研究所研究機関研究員。

研究活動の概要

中国法制史と法社会学を専攻としている。従来あまり注目されてこなかった明代の法制を中心に研究を進めてきたが, 最近は秦漢時代にも目を向け, 将来的には帝制時代を通じた中国法の非法実証主義的な理解を目標としている。

過去の主要業績 (1998. 3 まで)

「西洋社会理論に見られる『呪力剥奪の輪廻』の文化論的検討——中国との文化論的対話の再開を目指した法社会学の試み(1)」『法学論叢』137-6 1995 67-84 頁

「西洋社会理論に見られる『呪力剥奪の輪廻』の文化論的検討——中国との文化論的対話の再開を目指した法社会学の試み(2)」『法学論叢』139-2 1996 85-111 頁

(翻訳) R. Shonholtz 著「正義実現における国民の役割と犯罪防止」, 棚瀬孝雄編『紛争処理と合意——法と正義の新しいパラダイムを求めて』ミネルヴァ書房 1996 61-75 頁

過去 2 年間の研究業績

「中国刑罰史における明代贖法——唐律的『贖刑』概念との比較」『東洋史研究』第 57 卷 4 号 1999 年 3 月 104-147 頁

「律と例の間——明代贖法を通じてみた旧中国法の一斑」『東文研紀要』138 1999 1-65 頁

東アジア部門 (第二)

丘山 新 おかやま はじめ

略 歴

1948. 6 生。1972 京大・理・物理学卒, 1976 東大大学院人文・印哲・修士課程修了, 1979 財団法人東方研究会専任研究員, 1980 中国北京大学留学 (～1982), 1986 日大文理学部専任講師, 1990 東文研助教授, 1992. 3 ミュンヘン大学客員研究員 (～1993. 2) を経て, 1994 年より東文研教授。

研究活動の概要

(1)中国の仏教をインド仏教とは異質な思想として、また教理学・教理史としてではなく中国宗教思想史のなかに位置づける。(2)仏教思想に基づいた他者論を宗教哲学理論として構築する。(3)日本で初の本格的漢籍目録データベースを構築し、漢籍の国際連合目録データベースの構築を目指す。

過去の主要業績 (1998.3 まで)

「閉じられた自己」から「開かれゆく自己」へ——仏教における自己と他者」

『東文研紀要』117 1992 533-586 頁

「漢訳仏典と漢字文化圏」『東アジア社会と仏教文化』春秋社 1996 223-239 頁

『定本 中国仏教史 I, II, III』(共訳) 柏書房 1992・1994 監修

『現代語訳 阿含経典 I, II』(共訳) 平河出版 1995 199-223 頁 1997 150-181 頁

過去2年間の研究業績

『現代語訳 阿含経典 III』(共訳) 平河出版 2000.1 101-153 頁

「求道と超越」『入矢教授追悼記念論集』汲古書院 2000.3 431-437 頁

「『祖堂集』牛頭法融章疏證」『東文研紀要』139 2000.3 39-83 頁

本学以外での教育活動

二松学舎文学部 (1999 年度)

学外活動

東方学会 (論文目録編集委員), 日本印度学仏教学会, 東西宗教交流学会, 日仏東洋学会, 国立民族学博物館共同研究員

蜂屋 邦夫 はちやくにお (1999.3 退職)

略 歴

1938.11 生。1963 東大・教養卒, 1965 同大学院・人文・比較文化・修士過程修了, 1968 同博士過程満期退学。1993 博士 (文学・東大)。1968 東文研助手, 1974 同助教授, 1987 同教授, 1990.3~12 中国北京大学にて文部省在外研究, 1999.3 停年退職。

研究活動の概要

中国宗教思想史を専攻し、六朝における仏教受容の問題、儒教経典の解読などを行ってきた。1985 年以降は大陸道教の現地調査を実施し、並行して初期全真

教の歴史と教理について分析研究し、多くの成果を出版した。

過去の主要業績（1998.3まで）

『金代道教の研究——王重陽と馬丹陽』東文研紀要別冊・汲古書院 1992 総
724頁

編著『中国の道教——その活動と道観の現状』東文研叢刊・本文冊・図版冊
汲古書院 1995 総1120頁

『中国思想とはなんだろうか』河出書房新社 1996 総250頁

『金元時代の道教——七眞研究』東文研紀要別冊・汲古書院 1998 総786頁
ほか約130点

過去2年間の研究業績

『玄奘三蔵』（共著『中国の群雄』十）講談社出版研究所 1998 総275頁中
199-273頁

「仏教と道教・儒教の対立——変容していった中国仏教」NHKスペシャル
『ブッダ 大いなる旅路』3 日本放送協会 1998 137-142頁

「幽遠なる東アジアの洪水伝説」『河川レビュー』No.106 1999 4-10頁

その他 著書2点、論文3点、その他4点

本学以外での教育活動

二松学舎大学大学院文学研究科（1998年度）

学外活動

日本中国学会、日本道教学会（理事）、中国社会文化学会、六朝学術学会（理事）、
国際道聯会（理事）

橋本 秀美 はしもと ひでみ（2000.4採用）

略歴

1966.7生。1990東大・文・中哲卒、1994修士（文学・東大）。1999文学博士
（北京大）。1999北京大学宗教研究所助理研究員、2000東文研助教授。

研究活動の概要

経学文献を校読している。かつては日本中世の文献も読んだが、近数年は主に
『儀礼』関係の文献を読んでおり、『儀礼疏』・『儀礼正義』等の点校本を製作中。
また、日本の文献資料を整理翻訳している。

過去の主要業績（1998.3まで）

『日本研究経学論著目録』（共編）中央研究院中国文哲所 1993 総878頁

『清家論語抄初探』東京大学古籍整理学習小組 1994 頁75 総
「日本古代論語学資料及其研究」『原学』第二輯 1995 353-380 頁

過去2年間の研究業績

「評江蘇古籍版儀礼正義」『経学研究論叢』第五輯 1998 155-158 頁
「点校本儀礼通論読後」『古籍整理出版状況簡報』1999年第4期 24-27 頁
「儀礼単疏版本説」『文史』第五十輯 2000 27-44 頁

尾崎 文昭 おざき ふみあき

略 歴

1947.6 生。1972 東大文・中文卒, 1975 修士(中文・東大院)。1979 同博士課程退学, 1979 東大文学部助手, 1980 中国・北京大学留学, 1983 帰国し退職, 1985 明治大学文学部専任講師・同助教授を経て, 1996 年より現職。

研究活動の概要

第一に、「五・四」退潮期(1920~25)を中心とする文学史研究を主テーマとし, 第二に, 同時期の魯迅・周作人兄弟の文学思想を分析してきた。特に近年は, 1980-90年代の思想文化また20世紀文学史についても関心をはらってきた。

過去の主要業績(1998.3 まで)

「魯迅の『多疑』思惟方式についての試論」藤井省三ほか編『魯迅研究の現在』汲古書院 1992 73-94 頁

「周作人の新村提唱とその波紋(上/下)」『明治大学教養論集』207/237 1988 /1991 119-136 頁/67-85 頁

「『故郷』の二重性と『希望』の二重性——『故郷』を読む」『颯風』21 1988 1-22 頁

「陳独秀と別れるに至った周作人——1922 年非基督教運動の中での衝突を中心に」『日本中国学会報』35 1983 232-244 頁

ほか11点

過去2年間の研究業績

「中国近現代文学関係雑誌記事データベース (<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ozaki/>) に検索サービスを公開

「中国図書(大陸系)の電子化状況」(共著)『明日の東洋学』2 1999 2 頁

本学以外での教育活動

明治大学文学部(1998 年度), 東京女子大学文理学部・現代文化学部(1999 年

度)

学外活動

中国社会文化学会 (理事), 日本中国学会

嚴 鋒 イェン フォン (2000.3 退職)

略 歴

1964.7 生。1986 中国上海・復旦大・中文卒, 1994 博士 (中文・復旦大)。1994 復旦大学中国語言文学系講師, 1998.4 から 2000.3 まで東大東洋文化研究所助教授, 2000.4 から中国上海・復旦大学中国語言文学系助教授。

研究活動の概要

1930 年代中国文学の比較文学的方法による研究。また、海外文学理論の 1980 年代における受容過程, およびそれが文学と文学批評に与えた影響, さらに 90 年代の小説について研究している。

過去の主要業績 (1998.3 まで)

『現代話語 (ディスコース)』山東友誼出版社 1997 241 頁

編訳: フーコー原著『権力的眼睛: 米歇爾・福柯訪談録 (権力の眼: ミシェル・フーコー インタビュー集)』上海人民出版社 1996 274 頁

「伝播与策略: 西方現代派文学在新時期的初期訳介 (受容と方策: 新時期初期における西洋現代派文学の翻訳と紹介)」『中国比較文学』1994 年 2 期

「結構主義在中国 (中国における構造主義)」『上海文論』1992 年 3 期

ほか 10 点

過去 2 年間の研究業績

中国図書 (大陸系) の電子化状況 (共著)『明日の東洋学』2 1999 2 頁

小川 裕充 おがわ ひろみつ

略 歴

1948.10 生。1973 東大教養卒, 1977 修士 (文学・東大)。1979 東文研助手, 1982 東北大学文学部助教授, 1987 東文研助教授, 1992 東文研教授。その間, ハイデルベルク大学客員教授, 北京日本学研究中心客員教授を歴任。

研究活動の概要

私的には、山水画における構成の伝承の問題など、中国絵画を中心とする古代中世東アジア絵画史を研究し、公的には、世界的な中国絵画写真資料の維持・拡大を計っており、『中國繪畫總合圖錄 續編』刊行を終えたところである。

過去の主要研究業績（1998.3まで）

- 「院中の名画——董羽・巨然・燕肅から郭熙まで」『鈴木敬先生還暦記念 中国絵画史論集』吉川弘文館 1981 23-85頁
- 「大仙院方丈襖絵考（上）（中）（下）」『国華』1120 13-30頁, 1121 33-49頁, 1122 9-19頁 1989
- 「相国寺藏 文正筆 鳴鶴図（対幅）（上）（中）（下）」『国華』1166 5-17頁, 1181 5-17頁, 1182 22-32頁 1993・1994
- “The Continuity of Spatial Composition in Sung and Yuan Landscape Painting” in M. K. Hearn & J. G. Smith ed., *Arts of the Sung and Yuan*, New York: The Metropolitan Museum of Art, 1996 339-366頁

ほか 38点

過去2年間の研究業績

- 『世界美術大全集 東洋編 5 五代・北宋・遼・西夏』（編著）図版・総論・各論・図版解説・索引：小学館 1998 456頁
- “The Chinese Painter Muqi” in *Memoirs of the Research Department of The Toyo Bunko* No. 57: 1999 33-59頁
- 『中國繪畫總合圖錄 續編』（共編）全4巻, 第1巻：368頁 第2巻：445頁 第3巻：371頁 第4巻：860頁 東京大学出版会 1998-2000

ほか 23点

本学以外での教育活動

東北大学大学院文学研究科・文学部（1999年度）、岡山大学大学院文学研究科・文学部（1999年度）

学外活動

美術史学会（代表委員）、東方学会（評議員）、美学会、文化財保存修復学会、密教図像学会、国華（編輯委員）

張 欣 ちょう きん (2000, 4 採用)

略 歴

1966. 11 生。1988 北京大学・中国文学卒, 1991 北京大学大学院・中国近代文学・修士課程修了。1991 北京大学東洋学学部助手, 1993 同退職。1999 東京大学大学院・アジア文化研究・博士課程修了。2000 東文研研究機関研究員。

研究活動の概要

1940 年代の中国文学を主として研究してきた。博士論文(「梅娘と中国“淪陷区”文学」)では梅娘の主な作品を論じたほか、梅娘が誕生した「場」であった「満州」文壇、そして活躍した「場」であった北京文壇を再構成することを試みた。

過去の主要業績 (1998. 3 まで)

「沈思的詩」『名作欣賞』2 1990 61-67 頁

「“中国新詩”派詩論現代性探索」『中国現代文学研究叢刊』2 1992 139-158 頁

「梅娘——ある“淪陷区”の女性作家」『ユリイカ』5 1994 268-269 頁

「占領下の北京文化人たち」『野草』56 1995 48-62 頁

過去 2 年間の研究業績

「梅娘——異邦での文学修業」『しにか』3 1999 102-107 頁

「“濃い灰色の影”の下の“日本研究”」『東京大学中国語中国文学研究室紀要』2 1999 83-100 頁

「張我軍和“大東亜文学者大会”」『国際東方学者会議紀要』44 1999 57-69 頁

本学以外の教育活動

武蔵大学 (1998・99 年度), 文京女子短期大学 (1998・99 年度)

学外活動

東方学会, 日本中国学会

南アジア部門

加納 啓良 かのう ひろよし

略 歴

1948. 3 生。1970 東大経卒，1990 経済学博士（東大）。アジア経済研究所入所，1980 東文研助教授を経て，1991 年より同教授。

研究活動の概要

ジャワの農村地域を中心に，インドネシア経済の歴史と現状を，東南アジアの他の国々や日本などの場合と比較しつつ研究してきた。1997 年からは社会科学研究所と共同でインドネシア大学における日本研究の支援にも尽力している。

過去の主要業績（1998. 3 まで）

『バグララン——東部ジャワ農村の富と貧困』アジア経済研究所 1979
xi+212 頁

『サワハン——「開発」体制下の中部ジャワ農村』アジア経済研究所 1981
ix+242 頁

『インドネシア農村経済論』勁草書房 1988 316 頁

『中部ジャワ農村の経済変容——チョマル郡の 85 年』（編著）東文研叢刊（東京大学出版会）1994 ix+478 頁

ほか多数。

過去 2 年間の研究業績

「揺籃期ジャワ農村の村落と『耕作者』——バンギル県『詳細査定簿』の分析」
『東文研紀要』136 1998. 12 167-225 頁

『東南アジア農村発展の主体と組織——近代日本との比較から』（編著）アジア
経済研究所 1999. 3

「インドネシア総選挙」拓殖大学海外事情研究所『海外事情』1999 年 10 月号 2-
11 頁

学外活動

アジア政経学会（常務理事），東南アジア史学会，京都大学東南アジア研究センター学外研究協力者（1998. 4～2000. 3），国立民族学博物館共同研究員（1998. 4～2000. 3），国際協力事業団「インドネシア・スラウェシ貧困対策支援村落開発

計画」国内委員会委員（1998.4～2000.3）、国際協力事業団短期派遣専門家（インドネシア大学日本研究センターに係る技術指導）（1998.8～1998.9）、同上長期派遣専門家（1998.12～1999.12）、国際協力事業団「日本研究センターに係る国内支援委員会」委員（1998.4～2000.3）、日本インドネシア NGO ネットワーク（副代表）

高橋 昭雄 たかはし あきお

略 歴

1957.4 生。1981 京大経卒，1993 博士（経済学・京大）。1981 アジア経済研究所入所，1986 ラングーン外国語学院留学（1988 まで），1993 ミャンマー農業省農業計画局客員研究員（1995 まで），1996 アジア経済研究所退職，同年 東文研助教授。

研究活動の概要

ミャンマーの農村地域を中心に社会経済の歴史と現状に関する研究を行ってきた。現在は特に，社会主義，市場経済といった「体制」と農村社会経済の変容との関係について，文献資料の分析と実態調査の二つの方向から研究を進めている。

過去の主要業績（1998.3 まで）

- 『ビルマ・デルタの米作村：「社会主義」体制下の農村経済』（研究双書 423）
アジア経済研究所 1992 x+249 頁
- 「上ビルマ農村の農外就業と階層構造：社会主義末期の一灌漑村を事例として」
（水野広祐編『東南アジア農村の就業構造』アジア経済研究所 1995 年 3 月）
51-78 頁
- 「市場経済化とミャンマーの米穀増産政策」（石原・内田・篠田・田島編『開発途上諸国の経済発展と社会変動』緑蔭書房 1997 年 10 月） 419-438 頁
- 「ミャンマーにおける農村間世帯移動と職業階層」（『アジア経済』第 38 巻 第 11 号 1997 年 11 月） 2-24 頁

過去 2 年間の研究業績

- 「ビルマにおける農地法制の展開と農民の「所有権」——農地国有化法とネーウィンの「農地制度革命」を中心に」（加納啓良編『東南アジアの農業発展の主体と組織——近代日本との比較から』アジア経済研究所 1998 年 12 月）
29-60 頁
- 「ミャンマー——困難な市場経済化への移行」（原洋之介編『アジア経済論』

NTT出版 1999年1月) 295-323頁

教育活動

東京大学大学院経済学研究科 (1998・99年度), 東京外国語大学外国語学部 (1998・99年度), 千葉大学法経学部 (1999年度)

学外活動

アジア政経学会, 東南アジア史学会

柳澤 悠 やなぎさわ はるか

略 歴

1944.11生。1967東大・経卒, 1970東大大学院経済・応用経済学専攻・修士課程修了(経済学修士)。1972同博士課程退学, 1993博士(経済学)。1972年横浜市立大学文理学部専任講師, 同助教授, 1983年東京大学東洋文化研究所助教授, 1989年より同教授。1976年に在外研究(英国)。

研究活動の概要

19・20世紀南インドの農業・農村構造の歴史的変動を農業労働者など下層民に焦点を当てて分析してきた。手織物業など在手工業や農村小工業についても考察してきた。現在は、南インドの村落共有地の変動を分析している。

過去の主要業績 (1998.3まで)

Socio-economic Changes in a Village in the Paddy Cultivating Area in South India
(Tokyo: Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA), 1985, 321pp.)

『南インド社会経済史研究』東文研紀要別冊 東京大学出版会 1991 405頁
A Century of Change: Caste and Irrigated Lands in Tamilnadu, 1860s to 1970s
(New Delhi: Manohar, 1996, xii+323pp.)

"The Handloom Industry and Its Market Structure: The Case of the Madras Presidency in the First Half of the Twentieth Century," *Indian Economic and Social History Review* 30-1 (1993): 1-25頁

ほか65点

過去2年間の研究業績

[論文]

「インドにおける農業統計と農業生産推計」一橋大学経済研究所 Discussion Paper D97-27 (1998) 1-13頁

「1930年代の英印関係とインド工業化の一側面」秋田茂・籠谷直人編『1930年代のアジア国際秩序』溪水社 2000年刊行予定

「南インド『村落共有地』・不耕作地・農業生産の歴史的変動」水島司編『南インドタミル地域の社会経済変化に関する歴史的研究』東京大学人文社会系研究科 2000年 221-43頁

本学以外での教育活動

東京外国語大学外国語学部（1998年度）、横浜国立大学教育学部（1999年度）

学外活動

日本南アジア学会（理事、常務理事）、国際経済学会、土地制度史学会、アジア政経学会、社会経済史学会、歴史学研究会、東方学会

井坂 理穂 いさか りほ（1999.4昇任転出）

略 歴

1969.8生。1992東大・教養・教養卒、1994東大大学院総合文化・地域文化・修士課程修了、同年東大大学院総合文化・地域文化・博士課程入学、1995東大大学院総合文化・地域文化・博士課程退学、1999哲学博士（Ph.D. ケンブリッジ大学）。1995東文研助手、1999東大大学院総合文化・地域文化・専任講師。

研究活動の概要

植民地期の西インドにおける政治・社会史を扱っている。特に19世紀後半から20世紀初頭の都市中間層について、彼らの帰属意識のあり方を分析している。その他の研究テーマには、この地方出身の政治家パテールに関するものがある。

過去の主要業績（1998.3まで）

「インド独立と藩王国の統合——藩王国省のハイダラーバード政策」『アジア経済』36-3 1995 33-51頁

過去2年間の研究業績

“Writings of History: The Notion of Gujarat and the Gujaratis in the Late Nineteenth Century”, 『東文研紀要』139（2000年3月）147-72頁

“The Construction of Gujarati Identity in the Late Nineteenth Century: Debates over the Language, Literature and History”, 『東文研紀要』137（1999年3月）233-55頁

「インド・パキスタン分離独立——中央の論理・地方の論理」『岩波講座世界歴史第24巻・解放の光と影』岩波書店 1998年7月 185-205頁

学外活動

日本南アジア学会、南アジア研究会、東方学会、東京外国語大学・AA 研共同研究員（1997-1999）、国立民族学博物館共同研究員（1998-2001）、文部省特定領域研究 A「南アジアの構造変動とネットワーク」研究協力者（1999-2001）

上村 勝彦 かみむら かつひこ

略 歴

1944.3 生。1967 東大文卒。1970 東大大学院人文修士課程修了，1988 博士（文学・東大）。1971 東大文学部助手（1973 まで），1973 東方研究会研究員（1978 まで），1978 國學院大学講師，1980 同助教授（1986 まで），1986 東文研助教授，1989 同教授（現在に至る）。

研究活動の概要

1999 年に、10 世紀のカシミールの詩論家アーナンダヴェルダナの『ドゥヴァニ・アーローカ』に関する研究論文『インド古典詩論研究』を発表した。目下、大叙事詩『マハーバーラタ』の翻訳と研究に従事している。同時に、サンスクリット詩論の研究も続行している。

過去の主要業績（1998.3 まで）

『カウティリヤ実利論』（訳）（上下）岩波文庫 1984 909 頁

『インド古典演劇論における美的経験——アビナヴァグブタの rasa 論』東文研紀要別冊（東大出版会）1990 528 頁

『バガヴァッド・ギーター』（訳）岩波文庫 1992 270 頁

ほか多数

過去 2 年間の研究業績

『インド詩集・夢幻の愛』春秋社 1998 270 頁

「ラージャシェーカラ作 *Kāvya-mīmāṃsā* 訳注（第 1 章—第 3 章）『東文研紀要』137 1999 183-210 頁

『インド古典詩論研究——アーナンダヴェルダナの dhvani 理論』東文研紀要別冊（東大出版会）1999 631 頁

本学以外での教育活動

東洋大学文学部（1998・99 年度）、川村学園女子大学文学部（1999 年度）

学外活動

日本印度学仏教学会（評議員）、日本仏教学会、東方学会（評議員）、日本南ア

ジア学会（理事）、仏教思想学会（評議員）、インド思想史学会（理事）、財団法人東方研究会（評議員）

永ノ尾 信悟 えいのお しんご

略 歴

1948.7 生。1971 京大文卒。1986 PhD（マールブルク大）。1980 九州東海大学講師（1984 まで）、1984 国立民族学博物館助手、1987.12 国立民族学博物館助教授、1991 東文研助教授、1994 同教授。

研究活動の概要

ヒンドゥー儀礼の形成と展開に関して、ヴェーダ後期文献からプラーナ文献を中心に研究。また、北インドの農村の低カーストの儀礼の歌の採集と分析を行う。

過去の主要業績（1998.3 まで）

Die Cāturmāsyā oder die altindischen Tertialopfer. Dargestellt nach den Vorschriften der Brāhmaṇas und der Śrautasūtras, (Tokyo: Institute for the Study of Languages and Culture of Asia and Africa, 1988, xxii+383 pp.)

“Who is the Performer of the Saṃdhyopāsana?” *Wiener Zeitschrift für die Kunde Südasiens*, Band XXXVI/Supplementband (1992): pp. 59-67.

“The Nāgapañcamī as Described in the Purāṇas and its Treatment in the Dharma-nibandhas,” *Journal of the Japanese Association for South Asian Studies*, no. 6 (1994): pp. 1-29.

“The Formation of the Pūjā Ceremony,” *Studien zur Indologie und Iranistik* 20 (1966): pp. 73-87.

ほか 17 点

過去 2 年間の研究業績

“The Autumn Goddess Festival: Described in the Purāṇas,” in *Living with Śakti: Gender, Sexuality and Religion in South Asia*, eds. Masakazu Tanaka and Musashi Tachikawa (*Senri Ethnological Studies*, no. 50, Osaka: National Museum of Ethnology, 1999), pp. 33-70.

「ヒンドゥー祭祀の形成と展開」岩波講座世界歴史 6『南アジア世界・東南アジア世界の形成と展開』岩波書店 1999 225-244 頁

「北ビハール、低カーストの儀礼の歌にみられる、ヒンドゥー・ムスリムの関係」(松井健編)『東洋文化』80 2000 77-138 頁

ほか2点

本学以外での教育活動

中央大学(1998, 1999年度), 東京外国語大学(1998, 1999年度)

学会活動

日本印度・仏教学会, 日本民族学会, 日本南アジア学会, 東方学会

戸田 裕久 とだ ひろひさ(1999.3まで)

略 歴

1964.6 生。1987 広島大・文・哲学卒, 1990 東大大学院人文・印哲印文・修士課程修了, 1995 同博士課程退学。1990 インド・デリー大学留学(1991まで), 1995(財)東方研究会専任研究員, 1996 立正大学非常勤講師, 法華経文化研究所研究員, 1997 東文研研究機関研究員, 1999 東京学芸大学非常勤講師。

研究活動の概要

中世ヒンドゥー教研究。特に, トゥリカ派(Trika, 所謂カシミール・シヴァ派)における一神教的神秘主義思想の解明に取り組んでいる。

過去の主要業績(1998.3まで)

「カシミール・シャイヴァにおける jñānaśakti —— パーッタ派ミーマンサーの所説と対照して」『印度学仏教学研究』41-1 1992 494-492頁

「シヴァ一元論における志向作用——アビナヴァグブクにおける vimarśa と pratyavamarśa の用法」『東京大学文学部インド哲学仏教学研究室・インド哲学仏教学研究』2 1994 84-99頁

“udaya and pralaya in the Spanda-śāstra,” *Journal of Indian and Buddhist Studies* (印度学仏教学研究) 45-2 1997 pp. 1042-1039.

“An Instance of Syncretism of the Spanda- and Pratyabhijñā-systems,” *Studies of Buddhist Culture* (仏教文化研究論集) 1 1997 pp. 25-38.

ほか6点

過去2年間の研究業績

「シヴァ教における三十六原理(tattva)をめぐる議論」『東文研紀要』137 1999 211-231頁

“The Ways of Mystical Realization in the Kashmir Śaivism,” *Japanese Studies on South Asia, No.V: The Way to Liberation: Indological Studies in Japan*, 2000 (forthcoming).

本学以外での教育活動

立正大学経営学部・仏教学部（1998・99年度）、東京学芸大学教育学部（1999年度）

学外活動

（財）東方研究会（研究員）、東方学院（事務局員）、日本印度学仏教学会、Bhandarkar Oriental Research Institute, Poona (Life Member)

西アジア部門

鈴木 董 すずき ただし

略 歴

1947.9 生。1970 東大・法卒，1972 東大大学院法学・政治・修士課程修了，同年トルコ国・イスタンブル大学留学（1975 まで），1979 東大大学院博士課程退学，同年学術振興会奨励研究員，1980 立大法学部助手，1982 同退職，同年千葉大学教養部等非常勤講師，同年東大大学院法学・政治・博士課程修了，法学博士（東大）。1983 東文研助教授，1991 同教授。

研究活動の概要

研究対象は、西アジア地域であり、オスマン帝国を中心に、イスラム世界における、1) 政治体の支配組織と支配エリート、2) 世界秩序・政治的統合・アイデンティティー、3) 文化と社会の特質、の3分野にわたる。

過去の主要業績（1996.3 まで）

『オスマン帝国とイスラム世界』東京大学出版会 1997 vii+240 頁

『オスマン帝国の権力とエリート』東京大学出版会 1993 xiii+260 頁

『イスラムの家からバベルの塔へ——オスマン帝国における諸民族の統合と共存』リプロポート 1993 255 頁

「スレイマン大帝時代オスマン朝の大宰相と宰相たち（1）～（3）」『東文研紀要』101 1-71 頁，103 1-79 頁，106 35-94 頁 1986-88

過去2年間の研究業績

「イスラム帝国の交渉行動——オスマン帝国の場合」『国際交渉学——交渉行動様式の国際比較』勁草書房 1998 470-493 頁

「オスマン帝国における君主の『家』と権力」笠谷和比古編『公家と武家 II-

『家』の比較文明史的考察』思文閣出版 1998 214-232頁

「オスマン帝国とヨーロッパ」近藤和彦編『西洋世界の歴史』山川出版社
1999 186-196頁

ほか10数点

本学以外での教育活動

北海道大学法学部（1998年度）、慶応義塾大学大学院文学研究科（1999年度）、
慶応義塾大学文学部（1999年度）、横浜市立大学大学院国際文化研究科（1998・
1999年度）

学外活動

国際日本文化研究センター共同研究員、東京外国語大学アジア・アフリカ研究
所共同研究員、国立民族学博物館共同研究員、比較法史学会、地中海学会常任委
員、日本オリエント学会（理事、『オリエント』編集委員）、日本中東学会評議員、
日本国際政治学会評議員

長澤 榮治 ながさわ えいじ

略 歴

1953.4 生、東大・経卒、1976 アジア経済研究所入所 1981 エジプト派遣
(1983まで) 1995 アジア経済研究所退職、同年東文研助教授、1998 同教授、日
本学術振興会カイロ研究連絡センター長(1998.4-99.3)。

研究活動の概要

エジプトを中心に近現代アラブの社会経済史研究に取り組む。主要な研究テ
ーマは、エジプトの綿花経済と農業労働、灌漑制度、労働移動と社会的連帯、農村
の権力構造、農業資本主義論争、現代アラブ思想などである。

過去の主要業績（1998.3まで）

『東アラブ社会変容の構図』（編著）アジア経済研究所 1990 377頁

『中東 政治・社会』（地域研究シリーズ第10巻）（編著）アジア経済研究所
1991 282頁

「現代アラブ思想研究のための覚書——思想的危機と第2のナフダ」伊能武次
編『中東諸国における政治経済変動の諸相』アジア経済研究所 1993年 3-
45頁

「エジプト——灌漑制度改革の新段階」堀井健三・篠田隆・多田博一編『アジ
アの灌漑制度——水利用の効率化に向けて』新評論 1996年 419-459頁

ほか多数

過去2年間の研究業績

「イスラム世界の拡がりとは法秩序——加藤報告に寄せて」『歴史創造の事理と法理』（比較法史研究——思想・制度・社会7）1998 112-118頁

「中東の開発体制——エジプトにおけるエタティズムの形成」末廣昭編『開発主義』（20世紀システム4）東京大学出版会 1998 207-238頁

「少年が見たエジプト1919年革命」栗本英世・井野瀬久美恵編『植民地体験——人類学と歴史学からのアプローチ』人文書院 1999 243-262頁

ほか論文3点、その他2点

学外活動

日本中東学会（評議員）、日本イスラム協会、日本オリエント学会、国立民族学博物館共同研究員、日本学術振興会カイロ研究連絡センター長（1998年度）

羽田 正 はねだ まさし

略 歴

1953.7生。1976京大・文・史学卒、1978京大大学院文学・東洋史・修士課程修了、1983イラン学第3期博士（バリ第3大）。1984学術振興会奨励研究員、1985学術振興会特別研究員、1986京都橋女子大学文学部助教授、1989東文研助教授、1996ケンブリッジ大学東洋学部客員研究員、1997東文研教授

研究活動の概要

ペルシア語史料を用いたイラン世界の政治史、制度史、都市史研究、イスラム建築史の研究、それに欧文ペルシア旅行記研究や環インド洋世界史研究などが主要なテーマである。

過去の主要業績（1998.3まで）

Islamic Urban Studies: Historical Review and Perspectives (co-editor), London: Kegan Paul International Ltd., 1994 xvii+365頁

『モスクが語るイスラム史：建築と政治権力』中央公論社 1994 251頁

『シャルダン『イスファハーン誌』研究——17世紀イスラム圏都市の肖像』東文研叢刊 東京大学出版会 1996 viii+413頁

『成熟のイスラーム社会』永田雄三と共著 中央公論社 1998 446頁

ほか多数

過去2年間の研究業績

『勲爵士シャルダンの生涯——十七世紀のヨーロッパとイスラーム世界』中央
公論新社 1999 313頁

『三つのイスラーム国家』『岩波講座世界歴史14 イスラーム・環インド洋世
界』岩波書店 2000 3-90頁

本学以外の教育活動

学習院大学文学部(1998年度), 慶応義塾大学文学部(1999年度), 早稲田大
学文学部(1999年度)

学外活動

日本中東学会(評議員), 日本イスラム協会(評議員), 日本オリエント学会,
史学会, 東洋史研究会, 西南アジア研究会, 内陸アジア史学会(常務理事), 日
仏東洋学会(評議員), Society for Iranian Studies (Editorial Board), Société
asiatique, Association pour l'avancement des études iraniennes, 東京外国語大
学・AA研共同研究員, 国立民族学博物館共同研究員

榎屋 友子 ますや ともこ

略 歴

1961.9生。1986 東大・文・美術史卒, 1989 ニューヨーク大学大学院・美術史・
修士課程修了, 1990 東大大学院・人文・美術史修了, 1997 ニューヨーク大学大
学院・美術史・Ph.D.取得。1992-94 メトロポリタン美術館イスラーム部ハゴッ
プ・ケヴォルキアン学芸研究員, 1997-99 国立民族学博物館第2研究部(のち博
物館民族学研究部)助手, 1999 東文研助教授。

研究活動の概要

西アジア, 中央アジア, 北アフリカにおけるイスラーム時代の美術史を, 物質
資料及び文字資料に基づいて研究・調査を行っている。特に13~14世紀のモン
ゴル時代における文化の東西交流に関心を持つ。

過去の主要業績(1998.3まで)

With Stefano Carboni, *Persian Tiles* (New York: The Metropolitan Museum
Of Art, 1993, 46 pp.).

『イスラム美術』青柳正規・有川治男・他編『NHK ベルリン美術館3』角川書
店 1993 82-99頁

"The Condition of The Metropolitan Museum of Art's Small *Shāhnāma* and

the Reconstruction of Its Text," in *Illustrated Poetry and Epic Images: Persian Painting of the 1330s and 1340s*, by Marie Lukens Swietochowski and Stefano Carboni (New York: The Metropolitan Museum of Art, 1994), 129-145 pp.

"The Ilkhanid Phase of Takht-i Sulaimān," Ph. D. dissertation (New York University, Graduate School of Arts and Science, Institute of Fine Arts, 1997, lii+789 pp.).

ほか4点

過去2年間の研究業績

「絢爛たるミクロの世界：ベルシアの細密画」『季刊文化遺産』6 1998 32-34頁

「第2章 スペインとマグリブ」「第7章 サファヴィー朝とガージャール朝」
「作品解説」杉村棟編『世界美術大全集 東洋編 第17巻 イスラーム』小学館 1999 73-84, 221-232, 362-371, 391-394, 403-410, 418, 424-425, 428-431, 437-438頁

ほか2点

学外活動

日本中東学会, 日本オリエント学会, 日本美術史学会, College Art Association, Historians of Islamic Art, Society for Iranian Studies, Middle East Studies Association, 国立民族学博物館共同研究員

後藤 明 ごとう あきら

略 歴

1941.7生。1965 東大・文・東洋史卒, 1967 東大大学院人文・東洋史・修士課程修了, 1967 (財) 東洋文庫研究生, 1968 (財) 東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター研究員, 1978 山形大学人文学部助教授, 1986 同教授を経て, 1987 東文研教授, 1994 東文研所長及び東大評議員並びに東洋学文献センター長を併任 (1996 まで)。

研究活動の概要

イスラーム世界の歴史の展開を, 地球規模の人類史のなかに位置づける作業を継続しておこなっている。その一環として, 中東地域と東南アジア地域の関係を調査する研究会, 「イスラーム世界の虚像と実像」を検討する研究グループなど

を組織した。

過去の主要業績（1998.3 まで）

『メッカ——イスラームの都市社会』中央公論社 1991 197 頁

『事典 イスラームの都市性』（共編）亜紀書房 1992 768 頁

『文明としてのイスラーム——講座イスラーム世界2』（編書）栄光教育文化研究所 1994 376 頁

『イスラーム世界史』放送大学教育振興会 1997 150 頁

過去2年間の研究業績

「イスラーム世界の巡礼」『岩波講座・世界歴史・19・移動と移民』岩波書店
1999 299～321 頁

「イスラーム巡礼総論」歴史学研究会編『地中海世界史・4・巡礼と民衆信仰』青木書店 1999 194～233 頁

「世界史の可能性」『月刊百科』441 1999 61～70 頁

ほか若干

本学以外での教育活動

中央大学総合政策学部（1998・99年度）、放送大学（1998・99年度）

学外活動

（社）日本イスラム協会（理事長）、（社）日本オリエント学会（常務理事）、（社）中東調査会（理事）、日本中東学会（理事）、日本学術会議東洋学研究連絡委員会委員、国立民族学博物館地域研究企画交流センター運営委員、（財）東洋文庫兼任研究員、その他若干

鎌田 繁 かまだ しげる

略 歴

1951.3 生。1974 東大文卒、1976 修士（文学・東大）。1977 マッギル大学イスラーム学研究所留学（1982 まで）、1982 東大文助手（1984 まで）、1984 東文研助教授採用、1989 日本学術振興会カイロ研究センター派遣（1990 まで）。1995 東文研教授昇任。

研究活動の概要

イスラームの神秘思想を中心に研究を行ってきた。現在はシーア派の神秘思想（イルファーン）の世界観・人間（靈魂）観を、文献資料に基づいて考察している。同時にクルアーンなどの聖典解釈の問題にも関心を拡げている。

過去の主要業績 (1998.3 まで)

『モッラー・サドラーの靈魂論——『真知をもつ者たちの靈業』校訂・訳注並びに序説』イスラム思想研究会 1984 278頁

“The First Being: Intellect (*'aql/khiradh*) as the Link between God's Command and Creation according to Abū Ya'qūb al-Sijistāni,” 『東文研紀要』106 (1988) 1-33頁

「神秘主義とシーア・イマーム論の出会い——ファイド・カーシャーニーの完全人間論」『超越と神秘——中国・インド・イスラームの思想世界』鎌田繁・森秀樹編 大明堂 1994 291-310頁

「不可知界への参入——モッラー・サドラーの聖典解釈論」『聖典と人間』市川裕・鎌田繁編 大明堂 1998 206-223頁

ほか 58 点

過去 2 年間の研究業績

「イスラーム——死を超える生——」『死生観と生命倫理』関根清三編, 東京大学出版会 1999 80-92頁

“Time and Space in Mullā Ṣadrā's Mystical Thought through His Reference to Ushnuhī,” *Proceedings of World Congress of Mullā Ṣadrā 1999*, (in press).

「イスラームのタウヒード」『世界の宗教を学ぶ人のために』阿部美哉・藺田稔編 世界思想社 in press.

ほか論文 2 点, その他 6 点

本学以外での教育活動

信州大学教育システム研究開発センター (1998・99 年度), 東京外国語大学外国語学部 (1999 年度)

学外活動

日本オリエント学会 (理事・『オリエント』編集委員長), 日本宗教学会 (評議員), 日本イスラム協会 (評議員), 宝積比較宗教・文化研究所 (理事), 宗教史学研究所, 国立民族学博物館共同研究員, 東京大学出版会評議員 (1997.4~1999.7), 文部省学術審議会専門委員 (1999.1~2000.1), 大学入試センター教科専門委員会委員 (1997.4~1999.3)

森本 一夫 もりもと かずお

略 歴

1970.3 生。1992 東京大学・文・東洋史卒，1995 東大大学院人文・東洋史・修士課程修了，同年東大大学院人文社会・アジア文化研究・博士課程進学，1996 同退学，同年東文研助手，1996-1998 イラン・イスラム共和国ゴム市，歴史専門図書館客員研究員。

研究活動の概要

イスラーム諸社会におけるサイイド・シャリーフ——預言者ムハンマドの子孫・近親者——に関する比較史的研究を志向している。現在は特にイランに重点をおき、彼らの系譜文献を分析している。

過去の主要業績（1998.3 まで）

「サイイド系譜文献——新史料類型の紹介」・『アジア・アフリカ歴史社会研究』
1 1996 67-80 頁

「サイイド系譜学の成立（十，十一世紀）——系譜統制との関わりを中心に」・
『史学雑誌』105-7 1996 1-37 頁

“Shiklgiri-i ‘ilm-i ansāb-i Āl-i Abī Ṭālib dar qurūn-i chahārum wa panjum-i hijri,” *Majallah-i Dānishkadah-i Adabiyāt wa ‘Ulūm-i Insāni-i Dānishgāh-i Mashhad* 29-3/4, 1376Kh./1998 pp. 261-296.

過去 2 年間の研究業績

「サイイド・シャリーフ論の動向」『中東研究』448 1999 54-57 頁

「サイイドとシャリーフ——ムハンマドの一族とその血統」『岩波講座世界歴史
第10巻——イスラーム世界の発展』岩波書店 1999 293-315 頁

“The Formation and Development of the Science of Talibid Genealogies in the 10th & 11th Century Middle East,” *Oriente Moderno* N.S. 18-2 1999 pp. 541-570.

ほか 1 点

学外活動

史学会，中東学会，日本イスラム協会，国立民族学博物館共同研究員

菊地 達也 きくち たつや (2000.3 まで)

略 歴

1969.9 生。1992 東大・文・イスラム学卒，1994 東大大学院人文・イスラム学・修士課程修了，同年東大大学院人文社会・アジア文化研究・博士課程進学，1998 同修了，同年東文研研究員。2000 日本学術振興会特別研究員。

研究活動の概要

イスマーイール派を中心にシーア派思想史を研究課題としている。10 世紀以降のイスマーイール派終末論および宇宙論の展開と，イスラーム哲学との関わりが博士論文以降の研究主題となっている。

過去の主要業績 (1998.3 まで)

「ハミードウッディーン・キルマーニーの知性論」『オリエント』第 38 巻第 1 号 1995 45-60 頁

過去 2 年間の研究業績

「ファーティマ朝期イスマーイール派終末論の変容」『オリエント』第 41 巻第 1 号 1998 95-109 頁

「イスマーイール派の神話構造」『中東学会年報』第 14 号 1999 57-84 頁

“Some Problems in D. De Smet’s Understanding of the Development of Ismā’ilism—A Re-examination of the Fallen Existent in al-Kirmānī’s Cosmology -,” *Orient: Report of the Society for Near Eastern Studies in Japan* 34 (1999): 109-123 pp.

ほか 1 点

本学以外での教育活動

東京学芸大学教育学部 (1999 年度)，駒澤大学仏教学部 (1999 年度)，国士舘大学文学部 (1999 年度)

学外活動

日本オリエント学会，日本イスラム協会，日本中東学，日本宗教学会

附属東洋学研究情報センター

中里 成章 なかざと なりあき

略 歴

1946. 12 生。1972 東大・文・東洋史卒。1975 東大院・人文・修士修了。1987 博士 (Ph. D. カルカッタ大)。1977 東文研助手, 1987 (財) 東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター調査資料室長, 1988 神戸大学文学部助教授, 1994 東文研教授, 1999 東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター主任。1993 ロンドン大学 SOAS 客員研究員。

研究活動の概要

植民地支配期インドの社会経済史, とくにベンガル地方の農村史を中心に研究を行ってきた。現在は, インド・パキスタン分離独立の社会経済的背景を解明する仕事に取り組んでいる。

過去の主要業績 (1998. 3 まで)

"Superior Peasants of Central Bengal and Their Land Management in the Late Nineteenth Century," 『南アジア研究』2 1991 96-127 頁

Agrarian System in Eastern Bengal c. 1870-1910 (Calcutta: K. P. Bagchi, 1994), xix+337 pp.

"Regional Pattern of Land Transfer in Late Colonial Bengal," in *Local Agrarian Societies in Colonial India*, eds. Peter Robb et al. (London: Curzon, 1996), 250-279 pp.

「地域の重層性——ベンガルの場合」濱下武志・辛島昇編『地域の世界史1 地域史とは何か』山川出版社 1997 53-94 頁

過去2年間の研究業績

「インドの植民地化問題・再考」『岩波講座世界歴史 23 アジアとヨーロッパ』岩波書店 1999 155-179 頁

"The Origins of Development Planning in India", in *South Asia under the Economic Reforms*, ed. Fumiko Oshikawa (Osaka: The Japan Center for Area Studies, 1999), 287-298 pp.

『世界の歴史 14 ムガル帝国から英領インドへ』中央公論社 1998 205-413

頁（共著）

本学以外での教育活動

東京女子大学文理学部（1998・99年度）

学外活動

日本南アジア学会（常務理事）、Indian History Congress（Life Member）、Asiatic Society of Bangladesh（Life Member）、国立民族学博物館共同研究員（1998.4～2000.3）

宮嶋 博史 みやじま ひろし

略 歴

1948年10月生。1972京大・文・史学卒、1974京大大学院・東洋史・修士課程修了、1977同博士課程退学。1979東海大学文学部専任講師、1981都立大人文学部助教授、1983東文研助教授、1992同教授、1999東文研附属東洋学研究情報センターに配置換え。1991ソウル大学校経済研究所研究員。

研究活動の概要

17-20世紀初頭にかけての朝鮮の社会経済的変動を長期的視野から研究するとともに、東アジアにおける歴史的文献資料のあり方を総合的に比較研究することを目指している。

過去の主要業績（1998.3まで）

『朝鮮土地調査事業史の研究』東文研紀要別冊 1991 554頁

『両班（ヤンバン）』中公新書 1995 220頁

『アジアから考える 6. 長期社会変動』（編著）東大出版会 1994 306頁

『近代朝鮮水利組合の研究』（共著）日本評論社 1992 394頁

ほか36点

過去2年間の研究業績

『明清と李朝の時代』（共著）中央公論社 1998 462頁

『日本における‘国史’の成立と韓国史認識 宮嶋博史・金容徳編『日韓両国の相互接触と相互認識1 近代前期（仮題）』慶応大学出版部 印刷中 35頁

『書評：松本武祝著『植民地権力と朝鮮農民』』『日本史研究』444 1999 7頁

ほか4点

本学以外での教育活動

埼玉大学教養学部（1998・1999年度）、東洋大学大学院・文学研究科（1998・1999年度）

学外活動

朝鮮史研究会，韓国経済史学会

板倉 聖哲 いたくら まさあき

略 歴

1965. 12 生。1988 東京大学文学士（文学部美術史学科卒業），1991 東京大学文学修士（大学院人文科学研究科修士課程（専攻 東洋美術史）修了），1992 東京大学文学部助手，1996 大和文華館学芸部部員，1999 東京大学東洋文化研究所助教授 現在に至る。

活動の概要

研究領域は東洋，特に中国絵画史。東アジア文化圏においてイメージがどのように共有され，差異化されたかを比較し，イメージの生成・伝播・受容の過程を追及。個別の作品論としては南宋時代の画院画家たちの作品を継続して研究。

過去の主要業績（1998. 3 まで）

「唐宋絵画における夕・夜景表現——その素材との関わりについて」『美術史』134 1993 133～148 頁

「『樹下遊宴図屏風』（グラス美術館蔵）の祖型をめぐる諸問題——東洋絵画における遊宴の図像に関する序説」『美術史論叢』10 1994 1-19 頁

「伝趙令穰『秋塘図』（大和文華館蔵）の史的 position」『MUSEUM』542 1996 33～51 頁

『李朝絵画——隣国の明澄な美の世界』展図録（共編）大和文華館 1996 120 頁

ほか 22 点

過去 2 年間の研究業績

『故宮博物院第 4 卷 明の絵画』日本放送出版協会 1998 91 頁

『元時代の絵画——モンゴル世界帝国の一世紀』展図録（共編）大和文華館 1998 173 頁

「馬遠『西園雅集図巻』（ネルソン・アトキンス美術館）の史的 position—虚構としての『西園雅集』とその絵画化をめぐる」『美術史論叢』16 号 1999

49～78頁

ほか論文3点、その他13点

本学以外での教育活動

神戸大学文学部（1998年度）

学外活動

美術史学会、書学書道史学会、日本歴史文化学会、奈良国立博物館調査員
（1999.4～2000.3）

深見 奈緒子 ふかみ なおこ（1999.10採用）

略 歴

1956.11生。1979 東京都立大学・工・建築卒。1981 東京都立大学大学院・工・建築・修士課程終了、1986 東京都立大学・工・建築・研究生（1997まで）、1998 工学博士号取得（横浜国立大学）。同年東京大学東洋文化研究所非常勤講師（1999まで）、横浜国立大学工学部非常勤講師、1999 東京大学東洋文化研究所客員教授。

研究活動の概要

イラン、中央アジア、インドを中心としたイスラーム建築史、都市史研究がテーマである。現地に遺存する建築物を調査し、曲面架構に現れる様式に着目した編年の検討や、古地図との対比による都市史研究を行う。

過去の主要業績（1998.3まで）

「イラン・中央アジア圏におけるモンゴル侵入以前のイスラーム墓廟建築」『ラーフィダーン』XV 1994 146-51頁

「中央アジア圏のムカルナスについての歴史的考察——イスラーム建築におけるムカルナス・ヴォールティングに関する研究」『建築史学』22 1994 2-36頁

「イスファハーンのゴンパディ・ハーキにみられる装飾文様」『金沢大学考古学紀要』23 1996 250-253頁

「アナトリア圏・シリア圏・イラク圏のムカルナスについての歴史的考察——イスラーム建築におけるムカルナス・ヴォールティングに関する研究」『建築史学』27 1996 2-46頁

ほか40点

過去2年間の主要業績

- 「ヴォールディングの諸形態——イスファハーンのマスジディ・ジャーミから」
『金沢大学考古学紀要』25 1998 60-88頁
- 「イスファハーンのマドラサ調査から——建築形態と分布状況について」『東文
研紀要』137 1999 257-294頁
- 「イスファハーンのスファヴィー朝期の住宅に関する一考察」『東文研紀要』
139 2000 206-152頁
- ほか6点

本学以外での教育活動

横浜国立大学工学部・大学院（1998・99年度）

学外活動

建築史学会，建築学会，中東学会

鈴木 隆泰 すずき たかやす

略 歴

1964. 7生。1989 東大・工・精密機械工学科卒，1992 東大・文・印哲卒，1995
東大大学院人文・印哲印文・修士課程修了，1996 同大学院人文社会・インド文
学インド哲学仏教学・博士課程退学。同年東文研助手。

研究活動の概要

インド大乘経典群における如来常住思想と如来蔵・仏性思想との間の運動を、
原典・複数の翻訳資料を用いた〈異訳対照研究〉に基づき解明する。また、経典
の編纂伝承過程にも関心を寄せている。

過去の主要業績（1998. 3 まで）

“The *Mahāmeghasūtra* as an Origin of an Interpolated Part of the Present
Suvarṇaprabhāsa,” *Journal of Indian and Buddhist Studies* 89 (1996): 493-495
(L).

- 「如来常住経としての『大法鼓経』」『仏教文化研究論集』1 1997 39-55頁
- 「『金光明経 如来寿量品』と『大雲経』」『東文研紀要』135 1998 1-48頁
- 「『大雲経』の目指したもの」『インド哲学仏教学研究』5 1998 31-43頁
- ほか5点

過去2年間の研究業績

「大乘経典編纂過程に見られるコンテクストの移動 —— 〈如来の遺骨に関する

対論〉を巡って」『東文研紀要』136 1998 227-253 頁

“Mutual Influence among the Mahāyāna Sūtras concerning Sarvalokapriyadarśana,” *Journal of Indian and Buddhist Studies* 94 (1999): 10-14 (L).

「央掘魔羅經に見る仏典解釈法の適用」『印度学仏教学研究』95 1999 133-137 (L)

ほか4点

学外活動

日本印度学仏教学会, 日本仏教学会

IX 附属東洋学研究情報センター (RICAS)

東洋学研究情報センター (Research and Information Center for Asian Studies) は、東洋学文献センターに代わる東洋文化研究所の附属施設として、1999年4月1日に新設された。研究情報センターは、「アジア資料学」という研究分野を確立することを目的とし、具体的には、アジア研究のための資料を組織的に収集・蓄積しデータベース化すること、および資料そのものの性格について研究することを任務としている。センターの研究分野は造形資料学分野と比較文献資料学分野とに分かたれる。造形資料学分野は、美術作品・建築・考古資料・民族学資料・地図・挿絵・映像・写真等の非文字資料を、比較文献資料学分野は、漢文や中国語に限らずさまざまなアジアの言語で書かれた書籍、新聞雑誌、^{もんじよ}文書、碑文等の文字資料を研究対象とする。センターの陣容は、造形資料学分野担当の教授・助教授各1と、比較文献資料学分野担当の教授・助教授各1に、それらを補佐する助手1、さらにセンター教官と協力してプロジェクトを推進する客員教授1からなる。

99年度のセンターは、旧体制から新体制への過渡期にあった。センターは新たに設けられた教官ポストの選考を進め、両分野の教授ならびに造形分野の助教授が99年4月に、また客員教授1(造形資料学分野)が99年10月に着任した。またセンターは、旧東洋学文献センターの業務の中からデータベース作成、漢籍整理長期研修など重要なものを引き継いで実施するとともに、来年度以降に実施を予定している事業の準備を行った。準備作業としては、造形資料学分野での機器の整備、写真資料の整理、文献資料学分野での族譜資料の購入などが進められた。

センターは今後、旧センター時代の東アジアを中心とした資料蓄積の遺産を継承しつつ、さらに西アジア・東南アジア・南アジアをも含んだアジア全域にわたる造形・文献両資料の蓄積・加工・発信を行う計画である。このような活動に対応しうよう、既に狭隘化しているセンターのスペースを積極的に拡大してゆくことは緊急の課題である。さらに、研究方法や資料公開の方法の類似している東

大内外の機関との間で共同のプロジェクトを組織し、その実施をはかることも重要な課題となっている。

2000年度以降のセンターの新しい事業計画は鋭意検討中であるが、99年度に実施した主な事業は次のとおりである。

1 アジア資料の収集・蓄積

朝鮮・韓国の族譜のコレクション(300点、1900余冊)を購入し、また上海図書館と族譜資料の交換について基本的な合意をえた。全所蔵数は図書15,887冊(和漢書15,095冊、洋書792冊)、マイクロフィルム4,508リール(ポジ3,522リール、ネガ986リール)である。なお、新聞は36種を所蔵している。

2 アジア資料の整理・加工

データベースプロジェクトとして、近代朝鮮関係日本語図書所在データベース、東京大学東洋文化研究所漢籍目録データベース、倉石文庫漢籍整理、現代中国書データベース、Tibetan-Sanskrit 構文対照電子辞書構築、内蒙古出土資料の整理・データベース化、インド・イスラム史跡データベース、東アジア族譜データベース、中国絵画デジタルアーカイヴ・プロジェクト等を実施した。またセンターは、研究所で実施されているさまざまなデータベース・プロジェクトを集約する役割を果たした。

センターのプロジェクトを含め、東洋文化研究所のデータベース・プロジェクトはコンピュータ上で進められているので、将来的にはそれらを結合し、造形資料と文献資料の両方にまたがった「東洋文化研究所デジタル・アーカイヴ」を構築してゆく計画である。

3 活動の成果の公開・発信

センターの活動成果の多くはホームページ(<http://www.info.ioc.u-tokyo.ac.jp>)上で公開されている。

(a) アジア・デジタル展示館の公開

東洋文化研究所は開所以来、文献資料・写真資料を中心に様々なかたちの資料

を収集してきた。そのなかには、漢籍善本のほかにも甲骨片、瓦当、西域壁画断片といった世に知られたものが多数含まれている。この展示館では、造形・文献を問わずそのコレクションの内容を、センターのホームページ上で画像公開する。現在「西域壁画断片」、「仁井田文庫北京水売買文書」、「朝鮮・韓国族譜資料」、「インド・イスラーム史跡写真資料」等が試験公開されている。

(b) 漢籍整理長期研修の実施

センターの前身である東洋学文献センターでは、1980年度から漢籍整理長期研修を実施してきた。センターは、活動の成果を社会に還元してゆく事業としてこれを引き継ぎ、今後も実施してゆく計画である。99年度は6月28日から10月8日にかけて実施し、9名が受講した。研修受講者は図書館の司書で、受講後それぞれの所属図書館で漢籍の整理にあたり、研修の成果を活用している。

(c) データベースの公開

現代中国書データベース

1996年度に刊行した『東京大学東洋文化研究所現代中国書分類目録・索引』（1990年までに受け入れたものが対象）の内容をセンターのホームページ上で公開している。

東洋文化研究所所蔵漢籍目録データベース

東京大学東洋文化研究所に所蔵されている漢籍約7万点を収録する『東洋文化研究所漢籍分類目録』をデジタル化するプロジェクトが進行中であるが、「経部」と「史部」の漢籍については作業が終了し、センターのホームページ上で試験公開している。

近代朝鮮関係日本語図書所在データベース

本データベースは1868-1945年に出版された朝鮮関係日本語図書約17,000冊の日本国内所在データベースである。1999年中に作業を終え、4月からセンターのホームページ上で公開する予定である。

(d) 『明日の東洋学』の刊行

東洋学文献センターのニューズレターとして親しまれてきた『センター通信』を全面的に衣替えし、『明日の東洋学』を創刊した。99年度は第3号まで刊行した。

4 全国文献・情報センター長会議

第35回全国文献・情報センター長会議

センターは、東京大学法学部附属外国法文献センター、一橋大学経済研究所附属日本経済統計情報センター、京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター、および神戸大学経済経営研究所附属経営分析文献センターと共に、全国文献・情報センター長会議（5センター長会議）の構成員となっている。99年度は当番機関として、第35回全国文献・情報センター長会議を主催した。会議は2000年1月28日（金）に東京大学山上会館で開催された。

全国文献・情報センター人文社会科学学術情報セミナー

全国文献・情報センター長会議は95年度から、各センターが収集した資料情報を広く研究者に提供するために「全国文献・情報センター人文社会科学学術情報セミナー」（5センター共催セミナー）を開催してきた。本センターは、98年度の「人文社会情報とマルチメディア」、99年度の「人文社会情報の現段階」を他のセンターと共催した。

東京大学東洋文化研究所東洋学文献センター叢刊既刊一覧

(*在庫なし)

- *第1輯 東洋文化研究所東洋学文献センター 新収図書目録 (昭和41年度)
1968
- *第2輯 清代地方劇資料集 (一) 1968
- *第3輯 清代地方劇資料集 (二) 1968
- *第4輯 周揚著訳論文・周揚批判文献目録 1969
- *第5輯 郁達夫資料 1969
- *第6輯 東洋文化研究所東洋学文献センター 新収図書目録 (昭和42・43年度)
1970
- *第7輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇 (上) 1970
- *第8輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇 (中) 1970
- *第9輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇 (下) 1970
- *第10輯 李大釗文献目録 1970
- *第11輯 明刊元雜劇西廂記目録 1970
- *第12輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇・編著者名索引 1970
- *第13輯 魯迅全集注釈索引 1971
- *第14輯 1930年代中国文芸雑誌 (一) 1971
- *第15輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇 (I) 1972
- *第16輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇 (II) 1972
- *第17輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇 (III) 1972
- 第18輯 郁達夫資料補篇 (上) 1973
- *第19輯 切韻殘卷諸本補正 1973
- 第20輯 目録学 1973
- 第21輯 花間集索引 1974
- 第22輯 郁達夫資料補編 (下) 1974
- *第23輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集 (一) 1975
- 第24輯 江西蘇区文学運動資料集 1976
- 第25輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集 (二) 1976
- 第26輯 民国以来人名字号別名索引 1977
- 第27輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目 (一)
1978

- 第28輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集(三) 1978
- 第29輯 中国左翼文芸理論における翻訳・引用文献目録 1978
- 第30輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集(四) 1979
- 第31輯 儀礼疏攷正(上) 1979
- 第32輯 儀礼疏攷正(下) 1979
- 第33輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集(五) 1980
- 第34輯 小説月報(1920-1931)総目録 1980
- 第35輯 コミンテルン定期刊行物 中国関係論説・記事索引 1981
- 第36輯 魯迅文言語彙索引 1981
- 第37輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目(二)
1982
- 第38輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目(三)
1982
- 第39輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集(六) 1983
- 第40輯 東洋文化研究所所蔵 中国土地文書目録・解説(上) 1983
- 第41輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目(四)
1983
- 第42輯 校合本 大越史記全書(上) 1984
- 第43輯 『植民地雑誌』(*Koloniaal Tijdschrift*)所収論文目録 1984
- 第44輯 校合本 大越史記全書(中) 1985
- 第45輯 江西蘇区紅色戯劇資料集 1985
- 第46輯 宋之間詩索引 1985
- 第47輯 校合本 大越史記全書(下) 1986
- *第48輯 東洋文化研究所所蔵 中国土地文書目録・解説(下) 1986
- *第49輯 許舒博士所輯 廣東宗族契摺彙録(上) 1987
- 第50輯 沈佺期詩索引 1987
- 第51輯 中華人民共和國・朝鮮民主主義人民共和國 職官歴任表 1987
- 第52輯 韓国政治エリート研究資料——職位と略歴 1987
- 第53輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目(五)
1988
- *第54輯 許舒博士所輯 廣東宗族契摺彙録(下) 1988
- 第55輯 南嶽思大禪師立誓願文索引——六朝隋唐宗教・思想資料 1988
- 第56輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目(六)
1988

- 第57輯 郁達夫資料總目錄附年譜（上） 1989
- 第58輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目（七）
1989
- 第59輯 郁達夫資料總目錄附年譜（下） 1990
- 第60輯 山西票号資料 書簡篇（一） 1990
- 第61輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目（八）
1990
- 第62輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目（九）
1991
- 第63輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目収載
雜誌名索引 1992
- 第64輯 許壽裳日記（自1940年8月1日至1948年2月18日） 1993
- 第65輯 許舒博士所藏 商業及び土地契約文書——乾泰隆文書（1）潮汕地区
土地契約文書 1995
- 別輯 1 東京大学東洋文化研究所漢籍分類目錄（書名・人名索引）・京都大学
人文科学研究所漢籍分類目錄（書名・人名通檢）合併 四角號碼檢字
表 1975
- 別輯 2 海外所在中国絵画目錄（アメリカ・カナダ編） 1977
- *別輯 3 海外所在中国絵画目錄（東南アジア・ヨーロッパ編） 1981
- *別輯 4 日本所在中国絵画目錄（寺院編） 1982
- 別輯 5 LABRANG 李安宅の調査報告 1982
- *別輯 6 日本所在中国絵画目錄（博物館編） 1982
- *別輯 7 日本所在中国絵画目錄（個人蒐集編） 1983
- 別輯 8 中国經濟關係雜誌記事總目錄（一）——『中外經濟周刊』『經濟半月刊』
『工商半月刊』 1983
- 別輯 9 孟郊詩索引（上） 1984
- 別輯 10 孟郊詩索引（下） 1984
- 別輯 11 中国經濟關係雜誌記事總目錄（二）——『國際貿易導報』 1985
- 別輯 12 中国經濟關係雜誌記事總目錄（三）——『中行月刊』 1985
- 別輯 13 『内務行政雜誌』所収論文・記事目錄（A Catalogue of the Articles
in *Tijdschrift voor het Binnenlandsch Betuur*） 1985
- 別輯 14 中国經濟關係雜誌記事總目錄（四）——『銀行週報』（上） 1987

- 別輯 15 春秋晋国『侯馬盟書』字体通覧——山西省出土文字資料 1988
- 別輯 16 中国経済関係雑誌記事総目録（五）——『銀行週報』（下） 1989
- *別輯 17 海外所在中国絵画目録 改訂増補版（ヨーロッパ編） 1992
- *別輯 18 海外所在中国絵画目録 改訂増補版（アメリカ・カナダ編 上 本文編） 1994
- *別輯 19 海外所在中国絵画目録 改訂増補版（アメリカ・カナダ編 下 索引編） 1994
- 別輯 20 『販書偶記』正統編合併刊行目録 1995
- *別輯 21 海外所在中国絵画目録 改訂増補版（東アジア編） 1997
- *別輯 22 日本所在中国絵画目録 続編 1998
- 別輯 23 天津史文献目録 1998
- 別輯 24 東京大学東洋文化研究所仁井田文庫漢籍目録 1999

漢籍所在調査報告書

- *1. 長崎大学附属図書館経済学部分館漢籍分類目録・熊本大学附属図書館落合文庫漢籍分類目録 1980
2. 新潟県立新潟図書館漢籍分類目録・新発田市立図書館漢籍分類目録 1982
3. 愛媛大学附属図書館漢籍目録・書人名索引 1984・85

大型コレクション目録

Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection, Institute of Oriental Culture, University of Tokyo, by Hans Daiber [東京大学東洋文化研究所所蔵アラビア語写本（ダイバーコレクション）目録] 1988

Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection II, Institute of Oriental Culture, University of Tokyo, by Hans Daiber [東京大学東洋文化研究所所蔵アラビア語写本（ダイバーコレクションII）目録] 1996



2000年11月24日

東京大学東洋文化研究所

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

電話 (03) 5841-5833

ファクシミリ (03) 5841-5898

ホームページ URL <http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp>

印刷 三秀舎

デザイン 小山忠男

写真 研究所スタッフ

東京大学
東洋文化研究所
要覧
2000



獅子像